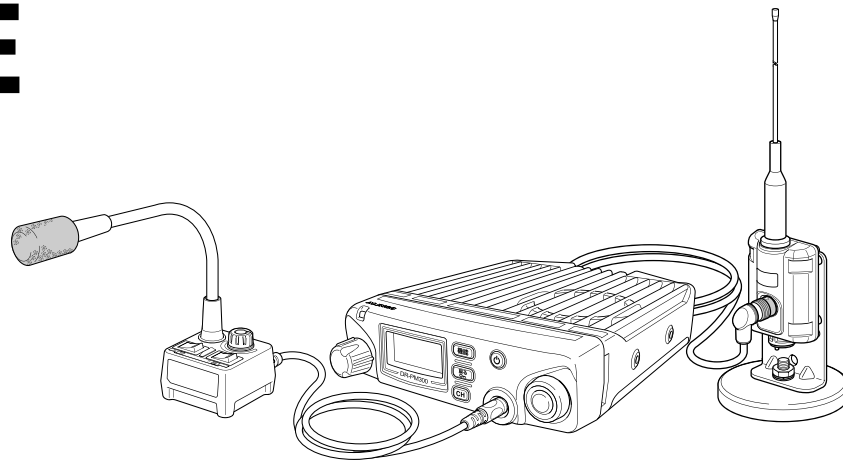
車載型特定小電力無線機
総務省技術基準適合品　特定小電力無線機器　無線部 :XE1148
Bluetooth Module XE1126 内蔵

DR-PM300SE

取扱説明書

アルインコの製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本機は免許、資格不要の特定小電力無線機器です。日本国内なら誰でも用途を問わず、各種通信にお使いいただけます。本機の性能を十分に発揮させるために、この取扱説明書を最後までお読みいただくようお願いいたします。アフターサービスなどについても記載していますので、この取扱説明書は必ず保管してください。また補足シートや正誤表などが入っている場合は取扱説明書と合わせて保管してください。

本機は日本国内専用モデルです。海外では使用できません。
This product is intended for use only in Japan.

アルインコ株式会社

本機を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前にお読みください。

この取扱説明書では、本機を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損失を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表　示	表示の意味
⚠ 危 険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警 告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注 意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、及び物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

図記号	表示の意味
⚠	△記号は、注意（危険・警告含む）を促す内容があることを告げるものです。 図の中には具体的な注意内容が描かれています。
⃠	○記号は、行為の禁止であることを告げるものです。 図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。
●	●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は AC アダプターをコンセントから抜け）が描かれています。

本製品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外部要因にて通信などの機会を失ったために生じた損害などの純粋経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

⚠危険

電源ケーブル接続の際は、極性を間違えないよう十分注意してください。火災・感電・故障の原因となります。赤の配線はプラス（＋）極、黒の配線はマイナス（－）極です。

本機の定格電源、電圧は DC13.8V と DC26.4V でいわゆる 12V 車と 24V 車に自動的に対応します。29V 以上の電圧が掛かると故障、火災、感電の原因となります。12V 以下、15 ～ 23V 程度の電圧だと電源がオンしない、定格通りの出力が出ない、などの不具合の原因となります。

必ず付属の電源ケーブルをお使いください。電源ケーブルを細くすると火災・感電・故障の原因となります。

万が一内部からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けてください。

⚠警告

■使用環境・条件

雷鳴が聞こえたときには、落雷のおそれがありますので、本機には触れないでください。感電の原因になります。

分解・改造・修理しないでください。取扱説明書に記載されている場合を除き、ケースなどを外し、内部にふれることはさけてください。火災・感電・けがの原因になります。（改造は電波法違反になります。）

周りに花びんなど、液体の入った容器を置かないでください。液体がこぼれて無線機内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

湿度の高い所や、冷たい所から急に温かい所へ移動しますと、本機に露がつく場合があります。露がつくと本機の動作に悪影響を与え、故障の原因となりますので、よく乾燥させ、露をよく取り除いてからご使用ください。

万一、発煙、異臭、異音などの異常がある場合は、使用しないでください。継続してお使いになると火災、感電、故障の原因になります。

電源ケーブルを折り曲げたり、ねじったり、傷つけたり、熱器具に近づけたり、加熱しないでください。故障の原因となります。

電源ケーブルを加工したり、ヒューズホルダーを取り除いて使用することは絶対にしないでください。火災・故障の原因となります。

ぬれた手で電源ケーブルに触れないでください。感電のおそれがありますので絶対にしないでください。

引火性のガスの発生場所では、電源をオンしないでください。発火の原因となります。

小さいお子様やペットの手が届かない場所で使用、保管してください。感電やけがの原因になります。

電子機器（特に医療機器）の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障・誤動作の原因となります。

内部から漏れた液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

医療や介護関連、または空港、鉄道、港湾、放送局、中継局など電波を使用する施設での使用については各施設管理者に事前に問い合わせ承認を得てからご使用ください。

この製品を人命救助などの目的で使用して、万一、故障・誤動作などが原因で人命が失われることがあっても、製造元及び販売元はその責任を負うものではありません。

本機どうし、または他の無線機とともに至近距離で複数台使用しないでください。お互いの影響により故障・誤動作・不具合の原因となります。

第三者の通信を聞いて知り得た情報を無断で他人に話したり、公開したり、許可なく利用したりすると電波法が定める通信の秘密保護条項に違反して罰せられます。

本機を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用した場合、いかなる誤動作・不具合が生じても製造元および販売元はその責任を負うものではありません。

指定以外のオプション品や他社のアクセサリー製品を接続しないでください。故障の原因となります。

本機の故障、電波環境や使用場所の状況などから通信できなかったことで発生した、逸失利益に対する責任は負いかねますのでご了承ください。

機種名、数字や記号が書かれたラベル類は、絶対に剥がしたり、他のシールなどで隠したり、貼り替えたりしないでください。技術適合の基準から外れ、違法無線機とみなされることがあります。

■運転中の本機の使用について

本機を運転手が走行中に運用する際は、安全運転を最大限優先してください。操作パネルを走行中に注視していると道路交通法違反で罰せられる可能性があります。

外部の音が聞こえないような状態にして運転しないでください。外部アンプや、大型スピーカーをつないで周りの音が聞こえないような大音量で受信したり、耳を完全に覆うタイプのヘッドホンを使ったりすると罰せられることがあります。一部の地方自治体では運転中にイヤホン・ヘッドホン類を使用すること自体を規制していますので、ご不明な点は最寄りの警察署などにお尋ねください。

■本機の取扱いについて

イヤホンを使用する場合、あらかじめ音量を下げてください。聴力障害の原因になることがあります。

本機無線部は調整済みです。無線部をユーザーが改造、仕様変更することは法律で禁止されています。

布や布団で覆ったりしないでください。熱がこもり、ケースが変形したり、火災の原因となります。また、なるべく直射日光を避けて風通しの良い状態でご使用ください。

下記の部位に水をかけたり、水が入ったりしないようにご注意ください。火災・感電・故障の原因となります。
・操作部全体　・電源ケーブルとバッテリーなど電源の接続部分
・連結ケーブルを接続していない無線部
（連結ケーブルを接続しないと防水になりません）

水などでぬれやすい場所（風呂場など）では使用しないでください。
火災・感電・故障の原因となります。

近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。
こぼれたり中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。

■無線部・スタンドマイクの設置について

高所に取付けないでください。落下によるけがや機器破損の原因となります。

振動や衝撃の多い場所や不安定な場所には設置しないでください。
落下によるけがや機器破損の原因となります。

無線部ブラケット EBC-66 は、本書に記載の設置方法以外の形状に組み立てて設置しないでください。落下によるけがや機器破損の原因となります。

■異常時の処置について

以下の場合は、すぐ本機の電源をオフにして、連結ケーブルや電源ケーブルを抜いてください。異常な状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。修理はお買い上げの販売店、または当社サービスセンターにご連絡ください。お客様による修理は、法令により禁止されていますので、絶対にお止めください。

■ 異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするとき
■ 落としたり、ケースを破損したりしたとき
■ 内部に水や異物が入ったとき
■ 電源ケーブルのコードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

■保守・点検

本機のケースは、開けないでください。けが・感電・故障の原因となります。内部の点検・修理は、お買い上げの販売店または当社サービスセンターにご依頼ください。本機に内蔵されている Bluetooth Module(XE1126) の分解、改造をすることは法律で禁止されています。
防水素材は時間が経つと劣化しますので、外郭保護性能についても製品と同じ保証期間となります。

⚠注意

■使用環境・条件

電化製品の近くで使うと電波障害を与えたり受けたりすることがあります。
原因となる機器から離れてお使いください。

湿度の高い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には設置しないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりして故障やけがの原因となることがあります。

幼児の手の届くところには置かないでください。けがなど事故の原因となります。

磁気カードなどを近づけないでください。特にマグネットマウントは強力な磁気を帯びた部品で、メモリーデバイスやキャッシュカードなどの内容が消去される場合があります。

直射日光の強いところや炎天下の車などに長時間放置しないでください。発熱・発火・故障の原因となります。プラスチックやビニールなどが多用されるマイクなどのアクセサリーは熱や日光で劣化しますので特にご注意ください。

普通のゴミと一緒に捨てないでください。環境破壊の原因となります。
廃棄の方法は一般家電製品と同様です。

放熱をよくするため、本機はできるだけ囲わないように設置してください。

雷に対する保護はなされていません。雷が接近している時や、発生が予想される時は屋外につながる連結ケーブルや電源ケーブルを本機から外してください。雷は直撃以外にもこれらのケーブルに高い電圧がかかり故障を起こす原因になります。

直射日光があたる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因となることがあります。

調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

■本機の取扱いについて

長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず本機の電源をオフにし、電源ケーブルを抜いてください。

連結ケーブル、電源ケーブル、マイクケーブルは無理に引っぱったり引き抜いたりしないでください。故障の原因となります。

■保守・点検

お手入れの際は、安全のため必ず本機の電源をオフにし、電源ケーブルを抜いてください。

汚れた場合は柔らかいきれいな布で乾拭きしてください。

ベンジン、シンナー、洗剤などの溶剤を使うと外装が変質したり、ショートを誘発して故障するため絶対に使わないでください。
パソコンやデジカメのようなＡＶ機器を清掃するために市販されているクリーニング用具が最適です。

■無線部・スタンドマイクの設置について

磁力で張り付いたマグネット基台部分を引っ張らないでください。
設置面に傷を付けるおそれがあります。

フロッピーディスクや磁気カードなどを近づけないでください。磁気の影響により記録内容が消去されるおそれがあります。

OA 機器、家電製品、ソーラーパネル、LED 電球などの近くに無線部を設置するとそれらが発するノイズの影響を受けやすくなります。
無線部と接続ケーブルはそれらの機器から離して設置してください。

■Bluetooth® について

別売のワイヤレスマイクをお使いになるときは必ずお読みください。

本機に内蔵している Bluetooth Module(XE1126) は総務省技術基準適合品です。分解、改造することは、法律でかたく禁じられています。

電子レンジの近くで使うと電磁波の影響で通話できなくなることがあります。妨害を受けたときは電子レンジから離れてください。

■Bluetooth 機能による電波干渉について

本機の Bluetooth 機能を使用するときは、以下についてご注意ください。
Bluetooth に使用される 2.4GHz 帯では、電子レンジなどの産業、科学、医療機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局)、特定小電力無線局（免許を要しない無線局)、アマチュア無線局が運用されています。

- 本機の Bluetooth 機能を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局、2.4GHz 帯のアマチュア無線局などが運用されていないことをご確認ください。
- 万一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変更するか、Bluetooth 機能をオフにしてください。
- その他、本機から移動体識別用の特定小電力無線局、アマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、弊社サービスセンターにご相談ください。

■本機の Bluetooth 機能の制限について

別売ワイヤレスマイクでは、下記の運用はできません。

- デュアルオペレーション
- コールバック

■2.4GHz 現品表示記号の意味について

「2.4」 ：2.4GHz 帯を使用する無線設備
「FH」 ：FHSS 方式
「1」 ：想定干渉距離が 10 m以下
「---」 ：全帯域を使用し、かつ移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局、アマチュア無線局の帯域を回避不可

2.4FH1

Bluetooth の登録商標 / 著作権について

■無線部とスタンドマイクの磁石基台について

本製品の一部に強力な磁石を使用した基台が使われています。この注意書きを必ずお読みください。正しく使用しないと事故や故障の原因となります。
使用方法の正誤に関わらず、設置面に付く傷や変色、さび、また電子カードやメモリーデバイスのデータ消失など、磁力による不具合は製品保証の対象外です。
かすり傷が困るような表面には磁石基台は絶対に使用しないでください。

【落下の危険に関する注意】

- 本機以外のものに基台を使用しないでください。
- 後述の設置方法をよくお読みの上、説明に従って正しく取付けてください。無線部の基台は側面設置を禁じており、スタンドマイクも振動による落下が無い環境でのみ壁面への取付けが可能になります。
- 移動するものに取付けたときはアンテナ部を引っかけないよう高さにご留意ください。
- 高速道路での移動時など、非常に強い風圧を受けるおそれのあるときは基台を外してください。
- 基台と設置表面の間に物をはさまないでください。
- 曲面や凹凸のある表面は避けてください。設置前に表面の汚れを落としてください。
- 磁石が引き寄せない金属（例：アルミニウム）には取付けできません。
- 激しい振動のある車両では予め試験運転をして、基台が落下しないか安全を確認してください。

【磁気と着脱に関する注意】

- 誤った使用は取付け面の傷や変色、さび、故障の原因となります。
- 基台の磁力は強力です。必ず本体を持って着脱してください。絶対にケーブルを引っ張らないでください。
- 環境によっては基台に砂鉄のような細かい鉄粉が吸着します。そのような場合は定期的にふき取って清掃してください。
- 屋外に設置して長期間使用していると、基台の部分に日光が当たらず周囲と基台部の変色の度合いが変わることがあります。時々基台の設置場所をずらせると変色は避けられます。
- かすり傷が付くと困るような表面には基台を設置しないで下さい。
- 電子カード類、医療機器、コンパスなど磁力に対する安全上の注意を促している機器や物品には絶対に近づけないでください。

◆◆◆目　次◆◆◆

安全上のご注意 **2**
目　次 **7**
使用前のご注意 **8**
機能と特徴 **8**
1.　お使いになる前に **9**
付属品の確認 9
電源の接続と設置方法 9
2.　本体の名称と動作 **14**
3.　基本操作 **15**
4.　通信前のご注意 **17**
5.　通信方法 **18**
通話方式の切替え 18
通話方式一覧 18
6.　便利な機能 **26**
キーロック 26
短縮設定 26
緊急通報 26
スキャン 26
デュアルオペレーション 26
ACSH（アクシュ） 27
エアクローン 28
中継リモコン 29
連結中継リモコン 29
ノイズキャンセラー 30
Bluetooth 機能 30
リセット 32
7.　セットモード **33**
セットモード一覧 33
セットモード基本操作 34
セットモード 34
8.　保守・参考 **43**
故障とお考えになる前に 43
9.　オプション一覧 **45**
10. 定格 **46**
11. 付録 **47**

◆◆◆ 使用前のご注意 ◆◆◆

■ 操作部とマイクは高温、多湿、直射日光が当たり続ける場所を避けてお使いください。

■ 本機の改造、変更は法律で禁止されています。分解したり内部を開けたりすることは絶対にしないでください。

■ 無線部の取付け基台には強力な磁石が使われています。磁気の影響を受ける電子機器の近くに設置すると、それらの機器に悪影響を与える可能性があります。

■ 他社製や弊社の旧製品とグループトーク設定すると、通話できないことがあります。使用するトーン信号の精度に関する相性で異常ではありません。2 ～ 37 番の間でグループ番号を変えてみてください。

■ 本機操作部は防水、防塵ではありません。水分や粉塵が内部に入って故障した場合、保証の対象にはなりません。工場で出る鉄粉などは意識していなくても内部に入りがちですので特にご注意ください。

■ 本機無線部は、連結ケーブルを正しく取付けていれば、防塵・防水になります。ただし、連結ケーブルの取付けが不十分で水分や粉塵が内部に入って故障した場合や、常に水しぶきや海水、油脂、薬品がかかる環境や鉄粉が飛散するような環境などで発生する不具合については、保証の対象にはなりません。

■ 本機の秘話機能は第三者に通信内容が聞かれる可能性を低くするものであり無線の性質上、通信の秘匿性能を保証するものではありません。

◆◆◆ 機能と特徴 ◆◆◆

■ 現場作業をメインとした外付装置無しの３者同時通話に対応しています。

■ 総務省技術基準適合品の Bluetooth Module（XE1126）を内蔵しています。本機の Bluetooth 機能は弊社製 Bluetooth アクセサリーにのみ対応します。

■ 大音量 2W のオーディオ出力、コンパンダー、緊急通報、オートパワーオフ、ACSH（アクシュ）やエアクローン設定など便利な機能はもれなく採用しました。

■ Bluetooth やノイズキャンセルに加えて、音声ガイダンスや短縮動作による機能など無線機をより便利にお使いいただける多彩な機能を搭載しています。

■ 別売の防水型マイク及び Bluetooth マイクが使えます。付属マイクと併用して３本のマイクで同時に送信もできます。

■ 急ブレーキが掛かったときのような「衝撃」と、車載時の揺れを想定した「振動」は、米軍納入規格（ＭＩＬ）をクリアしています。

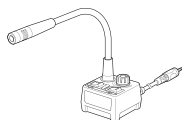
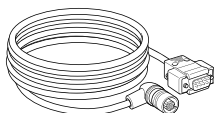
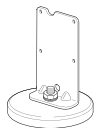
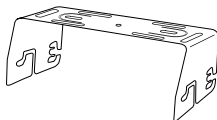
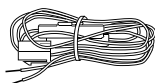
■ 基台とケーブルを含む無線部は IP65/66/67 相当の耐塵・防水です。

1 お使いになる前に

付属品の確認

□本機（操作部）

□本機（無線部）

□スタンドマイク　EMS-924

□連結ケーブル 5m　EDS-40S05

□無線部ブラケット　EBC-66

□モービルブラケット

□電源ケーブル　UA0038AY

□六角ネジ用スパナ

□モービルブラケット取付け用ネジセット

本体取付用六角ネジ AE0012 (M4 x 8mm) x 4

タッピングネジ (M5 x 20mm) x 4

ネジ (M5 x 20mm) x 4

六角ナット (M5) x 4

□無線部ブラケット取付け用ネジセット

六角ボルト (M8 x 25mm)

六角ナット (M8) x 2

ネジ (M3 x 8mm) x 4

□マイクスポンジ　FG0855

□取扱説明書 (本書)　□保証書

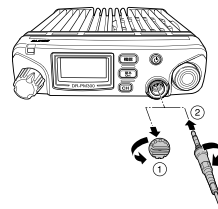
注意
- 保証書に購入の日付が記載されていないときは、レシートを保証書と一緒に保管してください。ご購入日が証明できる書類が無いと保証サービスは無効となりますのでご注意ください。
- 設置や取付けに使用するネジは付属または指定のものをお使いください。長すぎると機器内部のショート、短すぎると取付け不安定となり落下して故障の原因となります。

弊社純正、または弊社が認めたアクセサリー以外をご使用になって起きた不具合は保証期間の有無を問わず有償修理になります。他の無線機メーカー製オプション品が使えるかどうかは検証していません。他社製アクセサリーに関する事は、直接その製品のメーカーにお問い合わせください。
本機の保証は、本機と付属品だけに適用されます。

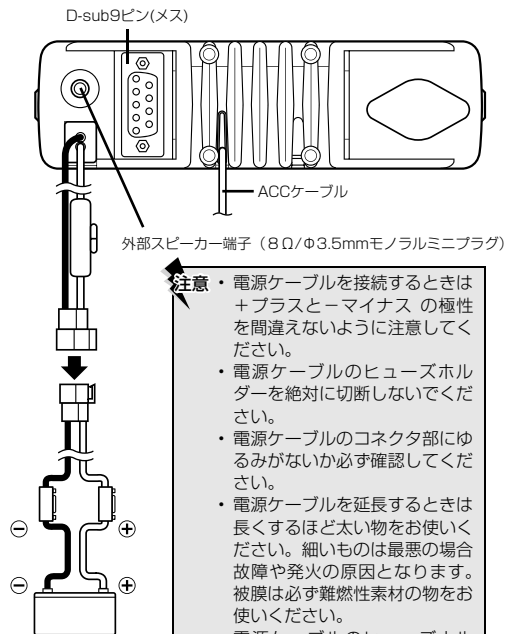
電源の接続と設置方法

本機の設置や取付けには、プラスドライバーなどの簡単な工具が必要です。設置を始める前に本章をお読みの上、必要に応じた工具をご用意ください。

■スタンドマイクの接続（EMS-924）

図のようにキャップ①を外し、左側のマイクコネクターに②のプラグを挿入します。
止まるまでしっかりねじ込んでください。

参考　別売マイクの接続については P.43 の説明をお読みください。

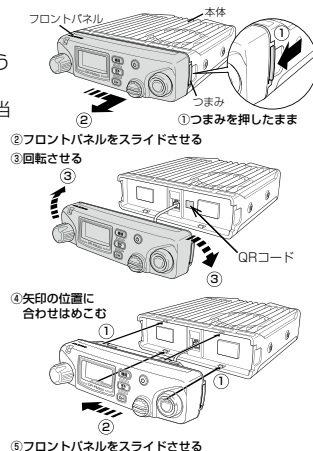
■電源と外部スピーカーの接続

電源は車のバッテリー（12/24V）に、直接付属の電源ケーブルで接続してください。外部スピーカーはアクセサリーメーカー製の無線機用をお勧めします。無線機販売店にご相談ください。

注意
- 電源ケーブルを接続するときは＋プラスと－マイナス の極性を間違えないように注意してください。
- 電源ケーブルのヒューズホルダーを絶対に切断しないでください。
- 電源ケーブルのコネクタ部にゆるみがないか必ず確認してください。
- 電源ケーブルを延長するときは長くするほど太い物をお使いください。細いものは最悪の場合故障や発火の原因となります。被膜は必ず難燃性素材の物をお使いください。
- 電源ケーブルのヒューズホルダーは濡れたり振動し続けているとショートやゆるみで故障の原因となります。濡れない場所に結束バンド等で固定して設置してください。

参考 基地局でお使いの時は別売の安定化電源器に接続してください。一番小さな３A クラスのものでお使いになれます。弊社製の DM-305MV をお勧めします。接続方法は安定化電源器の説明書をご参照ください。

■フロントパネルについて

本機は、上下どちらを向いても良いようにセットできます。
波型のヒートシンクになるべく外気が当たるように設置してください。

※右図の矢印で示した場所にあるＱＲコードは、弊社のＨＰにある本機の取扱説明書へのリンクです。

■車両やクレーンに設置する場合

なによりも安全運転を優先してください。次の手順に従って、接続してください。

●取付け場所

車種によりレイアウトは異なりますが、操作性、安全運転の面から最適と思われる場所を選んでください。
次のような場所は避けてください。

・ひざが本機にあたる場所や安全場所の動作に支障のある場所
・直接振動が伝わる場所
・ヒータの吹き出し口など、温度が高くなる場所
・マイクや操縦装置などに引っかかるような場所

注意 モニターなどの電子機器からなるべく離して配線、設置してください。ノイズの影響を受けて通信しにくくなるおそれがあります。

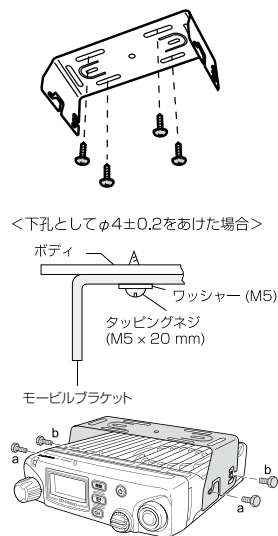
■モービルブラケットの取付け

ここでは、吊り下げて設置する方法を説明します。(+ ドライバー No.2 をご用意ください。)

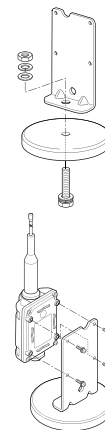
1. **モービルブラケットを適切な位置に取付けます。**
   付属のワッシャー（4 個）とタッピングネジ（4 本）で、取付けてください。

<下孔としてφ4±0.2をあけた場合>

2. **付属の六角ネジ（4 本）を本機に軽く取付けます。**
   必ず付属の六角ネジ（4 本、M4 × 8mm のみ）を使用してください。
   長すぎると内部部品を壊し、短いと落下して故障の原因となります。
3. **六角ネジ b をモービルブラケットの後ろの溝に先に入れ、押し上げながら押し込みます。**
4. **同時に六角ネジ a を前の溝に入れます。**
5. **六角ネジ（4 本）を締めて固定します。**

> **注意** 弊社の製品保証には､取り付けや取り外しに掛かる費用は含まれていません。
> 保証の有無にかかわらず不具合が起こり、製品を取外して再度取付ける際に費用が発生しても、弊社ではその費用の負担は致しかねます。
> 設置を第三者に委託されるときは、予めご了承ください。

■無線部ブラケットの取付け

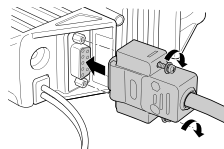
ここでは、無線部とブラケットの取付け方について説明します。13mm 幅のボックスレンチ、スパナなどと + ドライバー No.2 をご用意ください。

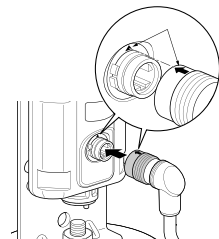
1. **ブラケットを水平面に取付けます。**
   付属の六角ボルトをブラケットの底面から挿入し、六角ナット、座金類（各 1 個）を締めて固定します。
2. **無線部をブラケットに正しく取付けます。**
   付属のネジ（4 個）を締めて取付けてください。

> **重要** 必ず基台が地面に対して水平になる場所に取付けてください。誤った取付け方だと無線部や基台が落下してけがや故障の原因となり、大変危険です。
> 誤った設置による故障や事故は製品保証の対象外です。

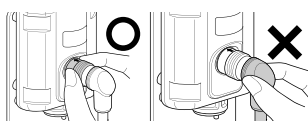
■連結ケーブルの取付け（操作部ー無線部）

ここでは、操作部－無線部をそれぞれ連結ケーブルで取付ける説明をします。
＋ ドライバー No.1 をご用意ください。

1. 操作部に連結ケーブルを正しく取付けます。

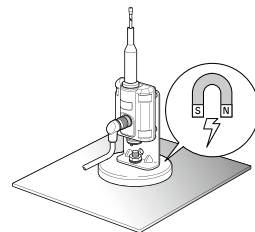
操作部リアパネルの D-Sub コネクタ (メス) に連結ケーブル側の D-Sub コネクタ (オス) を合わせながら取付けます。その後ネジを締めてしっかりと固定します。

2. 無線部に連結ケーブルを正しく取付けます。

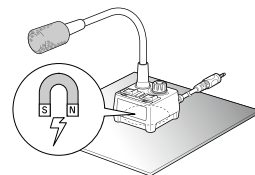
取付ける前に連結ケーブルが引っかかっていたり、過度な張力がかかっていないか確認します。
必ずリング部を持ちながら無線部 8P コネクタの「△マーク」と、連結ケーブル側の「⇦マーク」とを合わせながら「カチッ」と音がするまで奥までしっかり押し込みます。

3. 無線部の連結ケーブルを取外す場合

リング部を持ちながら、取付けとは逆の方向に引くと、リング部がスライドして取外すことができます。

注意
- 連結ケーブルを取付ける前に、ケーブル自体をしっかりと固定させてから無線部に取付けてください。
- 無線部の連結ケーブルを取外した後、そのまま放置しないでください。8 P コネクタから水分や粉塵が内部に入り、故障の原因となります。
- 無線部に連結ケーブルを取付け後、リング部の根元を持って無理に引っぱったり、回したりしないでください。故障の原因となります。
- 連結ケーブルに対して過度な張力や曲げが加わると、電気的性能の低下や断線するおそれがあるため、ご注意ください。
- 連結ケーブルは定期的に点検してください。異常のまま使用していると火災・感電・故障の原因となります。
- 配線の引き込み時にはケーブルを伝わって雨水などの水分が浸入しないようご注意ください。

※設置前に本書 P.6 の無線部とスタンドマイクの磁石基台に関する注意書きを必ずお読みください。

■無線部の設置

無線部ブラケットの底面部には、強力な磁石を使用しています。設置する場合は平らな金属面に設置し、しっかりと固定できていることを確認してください。

■スタンドマイクの設置と接続

・付属のマイクスポンジをマイクの先端に差し込み、止まるまでしっかり押し込みます。
音質に関わる大事な部品なので必ず取付けてください。劣化したら販売店でスペアをお求めください。
・設置場所を決めます。取付け場所によっては市販の金属アングルなどが必要です。
・設置場所が決まったらマイクとケーブルを仮止めします。ケーブルをハーネスなどで設置場所に固定してしまうと後から操作部へ接続しにくくなります。
・コインなどで操作部の防水キャップを回して外します。キャップは必ず保管してください。
・マイクのプラグを操作部のマイクジャックに挿したあと、回転が止まるまで時計回りにしっかり手でねじ込みます。工具などは使わないでください。
・引き続き本書を読んで、問題なく送受信できたら設置を完了させます。
・マイクは指向性があります。マイクの先端の正面が口に向くように設置してください。
・「マイク音量切替」の出荷設定は 7 です。使用環境によってハウリング等する場合は、音量を下げてお使いください。

注意 底面部には、強力な磁石を使用しています。設置する場合は平らな金属面に設置し、しっかりと固定できていることを確認してください。取付け後は試運転して落下、転倒が無いことをよくご確認のうえお使いください。

■外部電源コントロール機能

車両の ACC(イグニッションキー）入 / 切と連動して本機の電源をオンオフできます。
操作部の後ろに出ているブルーの線と接続できるギボシ端子、又は代用のコネクター類がついた ACC 端子までの長さのケーブル、簡単な工具類が必要です。
電源ケーブルの接続前に作業します。

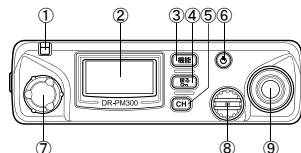
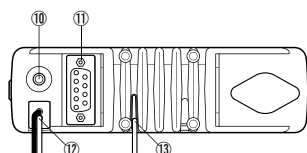
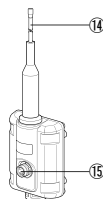
1. **本機後面から出ている ACC ケーブル (P.14) を、用意したケーブルに接続して ACC 電源に接続します。ACC を入れると 12/24V が出る端子であれば電流容量は問いません。電源が入ったことを操作部に知らせるだけなので電流はほとんど消費しません。**
2. **P.10 の説明を読み電源ケーブルを配線、接続します。**
3. **車両の ACC で電源を入れます。最初だけ手動で電源を入れます。オンの状態で ACC を切り、再度入れて本機の電源とイグニッションキーが連動していることを確認してください。**

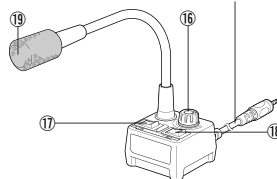
注意
- イグニッションキー入時は本機の電源キーでオンオフできますが、イグニッションキー切時は本機の電源をオンすることはできません。
- 本機の電源スイッチとイグニッションキーでの電源のオンオフは別の動作です。連動で電源をオンするときは一度、本機の電源をオンにした状態でイグニッションキーを切ります。
- イグニッションキーが入時は、本機の電源キーを手動でもオンオフできます。イグニッションキーが切れていると電源はオンしません。
- 本機の電源スイッチが切れているときに、イグニッションキーを入れても電源はオンしません。
- ACC ケーブルは電気的にオープンの状態では電源はオフしません。イグニッションキー切時に L レベル（車のシャーシアースと ACC 端子が 40k Ω以下）になるような ACC 端子に接続してください。車には複数の ACC 端子がありますので、確実にイグニッションキーで電源オンオフできる ACC 端子を探して接続してください。
- ACC ケーブルはショートしないようにしてください。
- 外部電源コントロール機能を使わない場合は、ACC ケーブルの保護キャップを必ず着けてください。

■車両への設置について

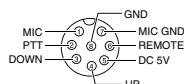
昨今の車両には多様な電子機器が搭載されており、これらの中には電磁波を発生したり、電波を利用するものがあります。それらが本機との間でお互いに電波障害を与えたり、受けたりする可能性があります。
設置時は他の機器の電源や配線と本機のケーブル類を絡ませないように留意し、設置後は安全な状態で試運転して、本機と車両の両方に異常が無いことを確認してください。

2 本体の名称と動作

■操作部　フロントパネル

■操作部　リアパネル

■無線部

■スタンドマイク (EMS-924)

ケーブル長：約 3m

■マイクコネクタ図

右のマイクプラグ、ジャックに関する注意書きを必ずお読みください。

＜マイクコネクタ２＞

操作部側正面

＜マイクコネクタ1 ＞

No.	名称	機能
①	ランプ	青色点灯：待受中、緑色点灯：受信中、赤色点灯：送信中 赤色点滅：リモコン送信 緑色点滅：設定完了 青色・緑色交互点滅：ACSH（アクシュ）モード 青色・赤色交互点滅：エアクローンモード 赤色・緑色交互点滅：ペアリングモード
②	ディスプレイ	本書中の " ディスプレイ表示 " を参照してください。
③	機能キー	押すとセットモードになります。 セットモードでは設定階層が深くなります。 長押しをすると短縮動作をします。
④	戻るキー	セットモードで設定階層が浅くなります。 長押しでキーロック設定 / 解除ができます。
⑤	CH キー	押すとチャンネルやグループが点滅し、ダイヤルで選択します。もう一度押すと解除されます。
⑥	電源キー	長押しすると電源をオンオフします。
⑦	ダイヤル	待受画面では音量、チャンネルを選択します。 セットモードでは設定項目や設定値を選択します。
⑧	マイクコネクタ 1	スタンドマイクまたはスピーカーマイクを接続します。 しっかりと奥までねじ込んでください。
⑨	マイクコネクタ 2	8 ピンマイクを接続します。
⑩	外部 SP 端子	市販の外部スピーカーを接続する端子です。
⑪	D-Sub9ピン(メス)	連結ケーブルを接続します。
⑫	電源コード	13.8V または 26.4V の DC 電源を接続します。
⑬	ACC ケーブル	外部電源コントロール機能を使用するときに使います。
⑭	アンテナ	アンテナ部です。
⑮	8P コネクタ	連結ケーブルを接続します。
⑯	マイク音量切替	マイク音量を 1 ～ 7 段階調整できます。
⑰	PTT スイッチ	オン (点灯) で送信し、オフ (消灯) で受信に切替わります。
⑱	MIC スイッチ	通常はオンにします。マイクに声を乗せたくないときはオフにします。戻し忘れにご注意ください。
⑲	マイク	マイク部です。

注意
- 純正アクセサリー以外のプラグを挿入すると壊れる可能性があります。そのときは保証の対象外となります。
- 故障の原因となりやすいデリケートな部品ですから、プラグ部分でねじったり、曲げたり、斜め方向に挿したりするなど、必要以上のストレスをジャック内部に掛けないでください。
- 必ずプラグは最後までしっかり挿入してください。中途半端に挿入された状態では、プラグ・ジャック両方が故障の原因になります。
- 工具を使って締め付けたり、必要以上に力を掛けてねじ込むことはおやめください。

■ディスプレイ表示

説明		
①		受信した電波のレベルに応じて四段階に点灯します。送信時には送信マークになります。
②	Lo	送信出力に応じて表示します。(P.36)
③	3者	通話方式に応じて表示します。(P.19)
④	子機	通話方式に応じて表示します。(P.18)
⑤		ベル機能設定時に表示します。(P.37)
⑥	M	ノイズキャンセラー設定に応じて表示します。(P.35)
⑦		現在有効なスピーカーを表示します。黒色スピーカーはマイクコネクタ 1 に接続するスピーカーマイク、白色スピーカーは内部 / 外部スピーカーを表します。
⑧		Bluetooth 設定時に点灯します。(P.30)
⑨	秘話	秘話設定時に点灯します。(P.34)
⑩	♫	コンパンダー設定時に点灯します。(P.34)
⑪	★	VOX 設定時に点灯します。(P.36)
⑫		キーロック設定時に点灯します。(P.26)
⑬	グループA	チャンネルやグループ、各設定内容を表示します。

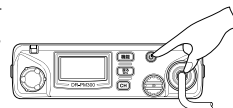
注意 通話方式によっては設定時にアイコンが表示されない場合がありますのでご注意ください。

3 基本操作

【重要】キーの操作方法について

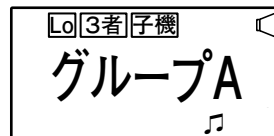
- 本書の説明でキーを「押します」は、押した後すぐに離すことを意味します。長く押しすぎると違う動作をすることがあります。
- 「約○秒間押す」「長く押す」「長押しする」とは機能が動作するまで押し続けることを指します。
- 「オンにする」「オフにする」操作をすると、反対の操作をするまでその状態を保持します。スタンドマイクでは「オン」でスイッチが点灯し、「オフ」で消灯します。
- 送信時以外はどの状態でも、「電源」キーを押すと変更した設定があればそれも確定して、素早く待ち受け状態に戻れます。

■電源を入れる、切る

「電源」キーを長押しすると電源が入ります。(オン) 電源を切る (オフ) ときも同じ操作をします。ACC 接続していれば自動でオンオフできます。

■音量を調整する

音量調節範囲は 0 ～ 30 までの 31 段階です。ダイヤルを回して適切な音量に調整してください。初期設定ではガイドが鳴り音量調整の目安になります。初期状態では設定した音量で音声ガイドが数値を読み上げます。

■チャンネルを合わせる

待受画面で「CH 」キーを押します。チャンネル番号が点滅中にダイヤルを回して設定したい番号に合わせます。音声で番号をガイドします。
「CH」キーか「PTT」キーを押すと表示が点灯に変わり確定します。初期値では 3 者同時通話の A ～ H が表示されますが、他の通話モードでも同様です。

■受信する

信号を受信すると、受信した信号レベルに応じてディスプレイのアンテナが表示され、交信条件を満たしているとき音声が聞こえるようになります。
本機には受信終了時に聞こえる「ザッ」音を低減するテールノイズキャンセラを採用しています。本機能を採用した弊社製の無線機との通話に対応しています。

重要 下記のような、インバーター内蔵の電気製品は受信障害の原因になることがあります。
*LED 照明　*IH 式調理器具　* ソーラー発電装置
*DC-AC インバーターなどの車載機器

■送信する

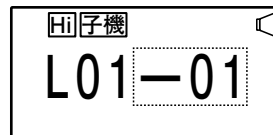
「PTT」スイッチをオンにすると、ランプが赤色点灯し送信状態になります。
送信状態で「MIC」スイッチをオンにしてからマイクに向かって話します。
マイクと口元は 5cm ほど離してください。以降「MIC」スイッチをオンにしている条件で説明します。
「PTT」スイッチをオフにすると、待受状態に戻ります。

重要
・マイクに向かって話すとき、声が大きすぎたり口元が近すぎたりすると、送信音が歪み (ひずみ) ますのでご注意ください。
・マイクは指向性があります。マイクの先端の正面を口に向けないと別方向の環境音などを大きく拾うことがあります。

■コールトーン

交互通話・中継子機通話・連結子機通話・デュアルオペレーションで使用できます。送信中に「戻る」キーや「CH」キーを押すと､音色の異なる呼出音が鳴り､相手の注意を引くことができます。別売マイクの場合でも送信中に「UP」キーや「DOWN」キーを押すと同様の動作ができます。初期状態の 3 者同時通話では鳴りません。

■グループトーク機能

交互通話・中継子機通話・2 者同時通話専用の機能です。他のグループの混信が聞こえず、一部のノイズを消す効果もあるので使用をお勧めします。０１と５０番は多用されているので別の番号を選ぶ方が効果的です。他社製や長年お使いの個体が混じるときは相性による通話不良を避けるため、０２～３６番からお選びください。全員の無線機に同じ番号を設定します。

●交互通話・中継子機通話

1. 待受画面で「戻る」キーを押すとグループ番号を表示
2. 「CH」キーを２回押すと番号が点滅
3. 点滅中にダイヤルを回して番号を選択
4. 「CH」キー押す、または「PTT」スイッチをオンにすると表示が点灯に変わり確定

● 2 者同時通話

このモードを選ぶと自動的にグループ番号が表示されます。機能をオフにすることはできません。

1. 「CH」キーを２回押すとグループ番号が点滅
2. 点滅中にダイヤルを回して番号を選択
3. 「CH」キー押す、または「PTT」スイッチをオンにすると表示が点灯に変わり確定

注意
・３・４者同時通話モードではあらかじめ設定済で変更はできません。
・他人の声を聞かなくて済むだけで、混信除去や秘話機能ではありません。同じチャンネルでグループ機能を使っていない人には通話は全て受信されます。

■本書中のマイクの説明について

重要
・本書のマイクに関する操作は EMS-924 を基本に説明しています。「PTT」スイッチは EMS-924 のスイッチのみを意味します。ハンドマイクやワイヤレスマイク､またそれらの「PTT」キーとは動作が異なる場合があります。
・「マイク」は全マイク共通､「スタンドマイク」は EMS-924､「別売マイク」はハンドマイクを意味します。別売ワイヤレスマイクはそれらに同梱の説明書も併せてお読みください。

4 通信前のご注意

特定小電力無線機の通信に関する制限事項について説明します。

キャリアセンス

妨害を与え合わないよう、誰かが同じチャンネルで送信中は他の人は送信できなくなります。グループ機能で使用者の声が聞こえないときでも送信は禁止され、「PTT」スイッチを押すとプププ、とアラーム音が鳴ります。

注意 後述のセットモードで選べるサウンドを「ガイダンス /OFF」に設定しているとアラーム音が鳴りません。

送信時間制限装置

特小無線ではチャンネルを独占できないように 1 回の送信は連続 3 分以内、と決められていて、時間を超えると約 2 秒間、強制的に再送信できなくなります。切れる 10 秒前に警告音が鳴り、3 分になると送信は停止します。中継子機通話では連続した中継動作が 3 分です。てきぱきと短い通話を繰り返していると中継器が受信状態に戻らないためタイムアウトします。応答する前に時々間を取るとタイマーがリセットされます。

通信距離

●河川敷のような障害物がない平地：交互通話 1km またはそれ以上 / 同時通話 800m 程度
●市街地のような障害物が多い所：交互通話 800m 程度 / 同時通話 600m 程度
●建屋内：構造や建材、設置された造作物の有無などで大きく変わります。
※測定時の条件 : 乗用車のルーフに無線部を設置、12V バッテリーから電源供給した本機と腰に装着した DJ-P300 間で通信 (交互通話は 10mW、同時通話は 2 ～ 3 者共通の連続 1mW)
※単体中継では交互通話のエリアを面で 4 倍程度、連結中継では直線方向に最大 8 倍程度広げることができます。（別売の本機対応中継器を使用時）

注意 トンネルのような閉鎖空間では、UHF 電波伝搬の特性により近距離でも通話できないことがあります。

運用中の無線機に本機を追加されるときの簡単設定

すでに運用中の無線機が以下であれば、次の 5 章で説明する「通信方法」操作を省いて、本機のチャンネルとグループ番号を簡単に自動設定できます。

●他社製品を含む特定小電力無線機
· 交互通話
· 中継子機通話

●弊社製の特定小電力無線機
· 2 者同時通話
· 3 者同時通話

上記に該当するときは、このまま本書 P.27 の「ACSH（アクシュ）」をお読みください。

通信方法

本機で使用できる通話方式の概要と操作方法を紹介します。

重要 基本の操作説明です、必ずお読みください。
P.33 のセットモードの項目に、本機が持つ機能のカスタマイズ方法が記載されています。次の項目以降、「セットモードで○○を設定します」という説明がひんぱんに出てきますが、全てこの操作が基本になるので、ここで使い方を憶えてください。以降、「機能キーを押してセットモードに入ります」や「電源キーを押すと確定して待受画面に戻ります」のような長い説明は省略します。

①電源をオンにし、通話したいチャンネルに合わせます。
②機能キーを押します。「セットモード」が表示されます。
ダイヤルを回して「○○設定」のようなメニューを選びます。
③もう一度「機能」キーを押すとサブメニュー画面になります。
もう一度「機能」キーを押すとその項目の設定値や機能の選択ができる設定画面になります。
④ダイヤルを回すか、また別売マイクの「UP」キーや「DOWN」キーを押して設定を切替えます。
⑤「戻る」キーを押すと新しい設定を保持して、ひとつ前の画面に戻ります。
「電源」キーや「PTT」キーを押したり「PTT」スイッチをオンしたりすると、確定して待受画面に戻ります。

※次の通話方式の手順を読みながら、この基本操作に慣れてください。
セットモードに項目がない場合は「拡張セットモード」がオフになっています。 P.34 の説明に従い拡張セットモードをオンにしてください。

通話方式の切替え

① セットモードで「通信設定」を選択します。

[セットモード]
通信設定
送信設定
受信設定 ▼

② 通信設定で「通話方式」を選択します。

[通信設定]
通話方式
コンパンダー
秘話設定 ▼

③ 下表「ダイヤル」の回数を参照してダイヤルを回し選択、確定します。

[通信設定]
3者同時通話
ーダイヤルー 変更 ‖ ー戻るー 完了

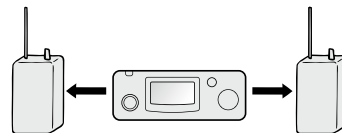
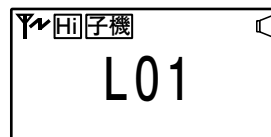
通話方式一覧

工場出荷状態では３者同時通話に設定されています。

通話方式	チャンネル	ダイヤル
交互通話	L01 ～ L09、b01 ～ b11　(20CH)	左に２回
２者同時通話	L10 ～ L18、b 12 ～ b 29 (27CH)	左に１回
３者同時通話	A ～ H　(8CH)	初期設定
４者同時通話	A ～ H　(8CH)	右に１回
中継子機通話	L10 ～ L18、b 12 ～ b 29 (27CH)	右に２回
連結子機通話	A ～ H　(8CH)	右に３回

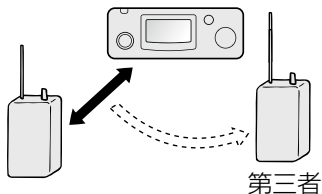
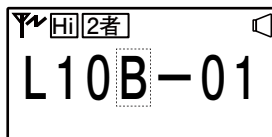
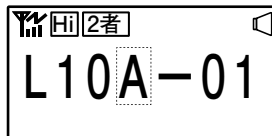
■交互通話

一人が話す音声を残り全員が受信します。話し終わったら任意の人が応答します。電波が届くところにいる人は人数に制限なく通話できます。無線機で一番基本の通話方式で、大勢でてきぱきと連絡を取り合うのに最適です。

チャンネル：L01 ～ L09、b01 ～ b11

①「PTT」スイッチをオンにします。スイッチのランプが点灯、送信アイコンが表示され、ランプが赤く点灯したらマイクの正面に向かって話します。最適な受信音声になるよう声量や口とマイクの距離、向きを調節します。

②話し終わったら「PTT」スイッチをオフにします。アイコンが消え、ランプが青く点灯します。交互通話時は、簡単にPTT操作できる別売マイクが便利です。

■2 者同時通話

電話のように２人だけで通話できるモードです。あらかじめグループトーク機能が設定されています。基本的には１対１の通話ですが、後述のセットモードで選べる音声ループを「オン」にすることで第三者も通話を聞くことができます。

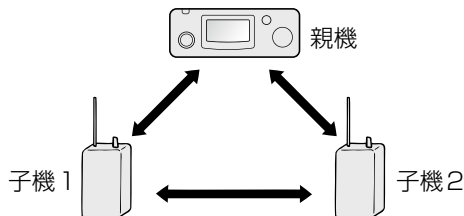
チャンネル：L10 ～ L18、b12 ～ b29

①待受状態で１人目が「PTT」スイッチをオンにして送信状態にしてマイクに向かって話します。チャンネルの後ろのＡがＢに変わり、ランプが赤く点灯します。

②音声受信を確認した２人目も「PTT」スイッチをオンにして送信状態にします。お互いに通話確認します。

参考
- 通話中に第三者が割り込むことはできません。
- 一時的に相手に自分の声を聞かせたくないときは「MIC」スイッチをオフにします。
- 初期設定はＬチャンネルが３分に一度２秒タイムアウト、ｂチャンネルはタイムアウト制限がない連続通話ができます。連続通話時は送信出力が「Lo」と表示されます。
- 表示されるＡとＢは使用周波数帯です。中継や同時通話は送信と受信時、それぞれ別の専用周波数を使っており、それを表示しています。インジケーターの一種とお考えください。実動作とＡからＢに表示が切り替わるタイミングにわずかなずれがありますが、特小無線で定められた規格の内部動作を行っているためで、異常ではありません。

注意 スピーカーマイクは、ハウリングが起こるため使用できません。また以下の場合はハウリングが起こる可能性があります。
・狭い反響空間または閉鎖空間である。
・本機とマイクの位置関係が近い。
・受信音量を大きくしている。
・マイク音量を大きくしている。
設置場所を見直すことや、受信音量・マイク音量を調整することをお勧めします。

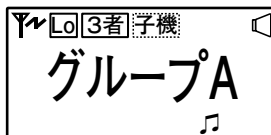
■３者同時通話

３人で同時通話できるモードです。専用の中継器などは不要です。工場出荷状態ではこのモードに設定されています。グループトーク機能についてはあらかじめ最適なものがプリセットされています。
初期設定ではタイムアウト制限がない連続送信ができます。

重要
- このモードはユーザーが３人必要です。２人で通話するときは２者同時通話モードを使用してください。
- 通話中、親機がグループを抜けると子機１・子機２の通話が途切れます。
- ４名以上のグループで使用者が入れ替わる場合と、受信のみのユーザーについても制限があります。詳しくは後述の「通信範囲」をお読みください。

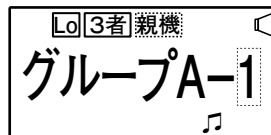
チャンネル：Ａ ～ Ｈ

①待受状態で親機（1人目）が「PTT」スイッチをオンにして送信状態にした後、マイクに向かって話します。通信成立後「親機」と表示されます。

②子機1（2人目）は親機の音声を受信した後に「PTT」スイッチをオンにして送信状態にします。その後マイクに向かって話します。通信成立後「子機」と表示されます。

②子機2（3人目）は親機、子機1の音声を受信した後に「PTT」スイッチをオンにして送信状態にします。通信成立後「子機」と表示されます。
それぞれで通話できるか確認します。

■個体番号

あらかじめ3人全員が個体番号を設定して親機、子機1、子機2の関係を固定することができます。設定後は親機、子機1、子機2の順番に関係なく送信することができます。

①待受状態で「戻る」キーを押すと、個体番号が設定されます。
個体番号：1 親機、2 子機1、3 子機2

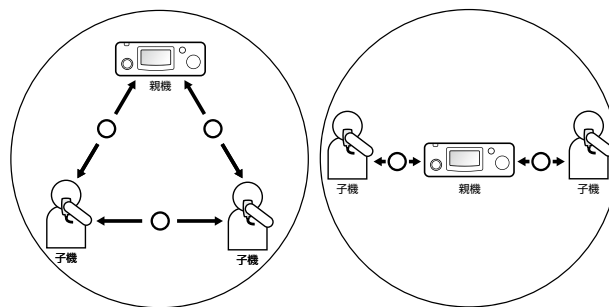
②個体番号を変更する場合は、「CH」キーを2回押すと個体番号が点滅します。

③点滅中にダイヤルを回して個体番号を選択します。

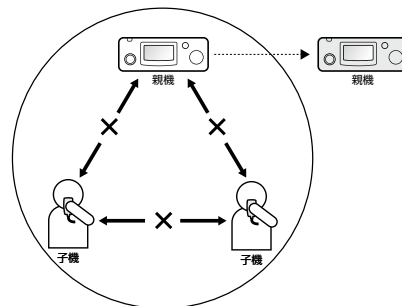
注意 それぞれで送信するタイミングが重なる場合、正しく通信できない場合があります。全員が待受状態から続けて2秒以上待ってから、それぞれタイミングをずらして送信してください。
スピーカーマイクは、ハウリングが起こるため使用できません。また以下条件の場合はハウリングが起こる可能性があります。
・狭い反響空間または閉鎖空間である。
・本機とマイクの位置関係が近い。
・受信音量を大きくしている。
・マイク音量を大きくしている。
設置場所を見直すことや、受信音量･マイク音量を調整することをお勧めします。

■通信範囲

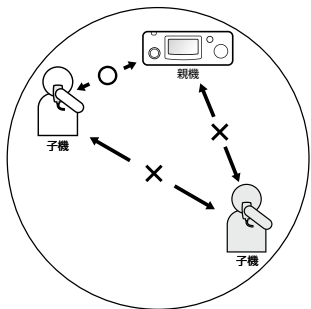
初期設定では、屋外の障害物が無い場所で親機－子機間で最長６００m程度が通信範囲となります。位置関係が変わると極端に通信範囲が狭くなったり、通話できなくなったりします。正しい位置関係になると元に戻ります。後述のセットモードで選べる送信出力を「High」にすると送信制限が動作しますが、通話エリアは２割程度広がります。

●正しい位置関係

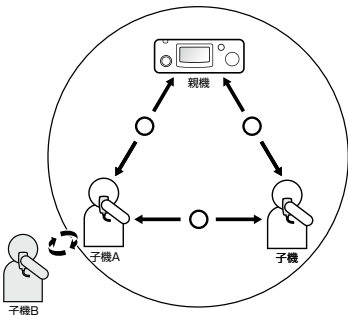
お互いに１０m以上の間隔で離れて通信エリア（円）の内側で通話します。
移動するときもお互いの間隔をとることを心がけます。

●通話できなくなる位置関係

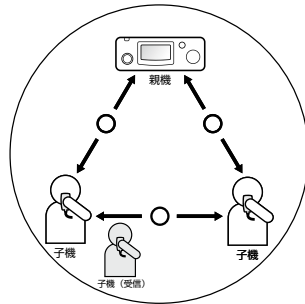
親機が通話エリアから抜けるか電源をオフにすると、全員の通話ができなくなります。

休憩などで一時的に抜けるときは､親機を送信状態のまま「MIC」スイッチをオフにします。

●通話できなくなる位置関係

親機または子機が極端に他の人に近づくと、遠くにいる子機の通話が途切れやすくなります。

●４名以上のグループで使用者が入れ替わる

ここでは子機を例とします。通信成立している上で、まず子機 A の「PTT」スイッチをオフにして待受状態にします。次に使用者の子機を入れ替えた後、子機 B の「PTT」スイッチをオンにして送信状態にします。それぞれで通話できるか確認します。

参考 親機の場合でも同様の手順で使用者の入れ替わりができますので、お試しください。

●受信のみのユーザー

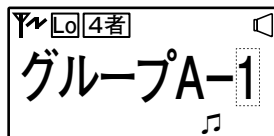
チャンネルさえ合わせれば人数に制限なく通話の受信ができます。受信のみのユーザーは通話エリア内の範囲でご使用ください。

■４者同時通話

４人で同時通話できるモードです。専用の中継器などは不要ですが、使用前に後述の説明にある個体番号の設定が必要となります。グループトーク機能についてはあらかじめ最適なものがプリセットされています。初期設定ではタイムアウト制限がない連続送信ができます。

重要
- このモードはユーザーが４人必要です。２人で通話するときは同時通話モード、３人で通話するときは３者同時通話モードを使用してください。
- １台間隔で受信音が少し小さくなりますが、異常ではありません。（A １－ A ３間、A ２－ A ４間）
- 通話中、誰かが一人でもグループを抜けると他の人の通話が途切れます。
- ５名以上のグループで使用者が入れ替わる場合と、受信のみのユーザーについても制限があります。詳しくは後述の「通信範囲」をお読みください。

チャンネル：A 〜 H

①個体番号を変更する場合は、「CH」キーを２回押すと個体番号が点滅します。

②点滅中にダイヤルを回して個体番号を選択します。１〜４をそれぞれ設定してください。

③待受状態で１人目（A1）が「PTT」スイッチをオンにして送信状態にした後マイクに向かって話します。

④２人目（A2）は１人目の音声を受信した後に「PTT」スイッチをオンにして送信状態にした後にマイクに向かって話します。

⑤３人目（A3）は２人目の音声を受信した後に「PTT」スイッチをオンにして送信状態にした後にマイクに向かって話します。

⑥４人目（A4）は３人目の音声を受信した後に「PTT」スイッチをオンにして送信状態にします。
それぞれで通話できるか確認します。

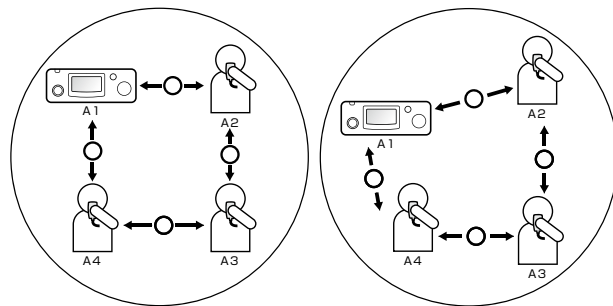
注意 それぞれで送信するタイミングが重なる場合、正しく通信できない場合があります。全員が待受状態から続けて２秒以上待ってから、それぞれタイミングをずらして送信してください。

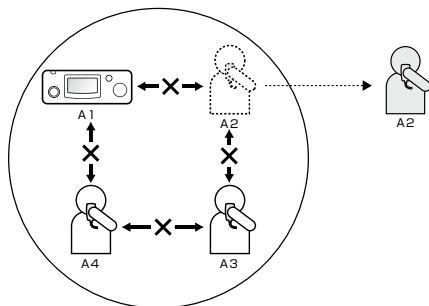
注意 スピーカーマイクは、ハウリングが起こるため使用できません。また以下条件の場合はハウリングが起こる可能性があります。
・狭い反響空間または閉鎖空間である。
・本機とマイクの位置関係が近い。
・受信音量を大きくしている。
・マイク音量を大きくしている。
設置場所を見直すことや、受信音量・マイク音量を調整することをお勧めします。

■通信範囲

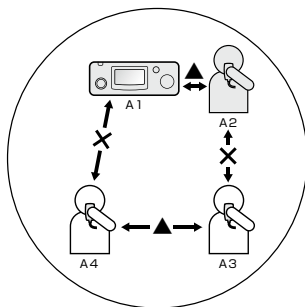
初期設定では、屋外の障害物が無い場所で最長３００m四方間隔程度が通信範囲となります。位置関係が変わると極端に通信範囲が狭くなったり、通話できなくなったりします。正しい位置関係になると元に戻ります。後述のセットモードで選べる送信出力を「High」にすると送信制限が動作しますが、通話エリアは２割程度広がります。

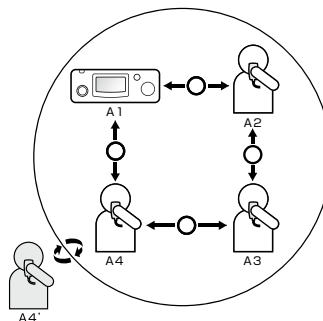
●正しい位置関係

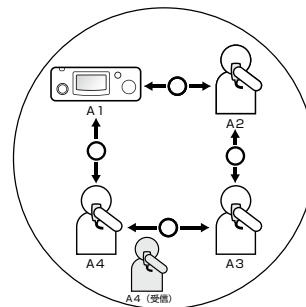
お互いに１０m以上の間隔で離れて通信エリア（円）の内側で通話します。
移動するときもお互いの間隔をとることを心がけます。また通話エリア内であっても線状には並ばないでください。

●通話できなくなる位置関係

１人でも通話エリアから抜けるか電源をオフにすると、全員の通話ができなくなります。

休憩などで一時的に抜けるときは、親機を送信状態のまま「MIC」スイッチをオフにします。

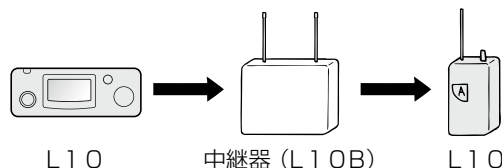
●通話できなくなる位置関係

１人が極端に近づく場合、例えばＡ１がＡ２に近づくとＡ３、Ａ４との通話ができなくなります。またＡ１－Ａ２間とＡ３－Ａ４間の受信音声が小さくなります。

●５名以上のグループで使用者が入れ替わる

ここではＡ４を例とします。通信成立している上で､まずＡ４の「PTT」スイッチをオフにして待受状態にします。次に使用者のＡ４を入れ替えた後、Ａ４' の「PTT」スイッチをオンにして送信状態にします。それぞれで通話できるか確認します。

●受信のみのユーザー

チャンネルさえ合わせれば人数に制限なく通話の受信ができます。受信のみのユーザーは通話エリア内の範囲でご使用ください。

■中継子機通話

中継器にアクセスする中継子機通話モードです。中継器を介することで、直接では電波が届かない相手と通話することができます。チャンネルとグループ設定が同じであれば、他の無線機とも中継器を介して通話できます。本機同士、または弊社製の中継対応子機と通話できます。

チャンネル：L10 ～ L18、b12 ～ b29

①あらかじめ中継器と本機のチャンネルを合わせます。送信元の「PTT」スイッチをオンにして送信状態にした後、マイクに向かって話します。

②送信元の音声が受信され、通話できているか確認します。

■周波数帯

他社製を混用するなど特殊な場合のみ必要になることがあります。弊社製の中継器と無線機のみを初期値でお使いなら操作は不要です。2 者同時通話の項目で説明した送信と受信の専用周波数を変更できます。初期値は受信が A 側、送信が B 側です。他社製は周波数を合わせても弊社製中継器では動作しないことがありますが、仕様の違いで互いに機器の異常ではありません。

①待受状態で「CH」キーを３回押すと周波数帯が点滅します。

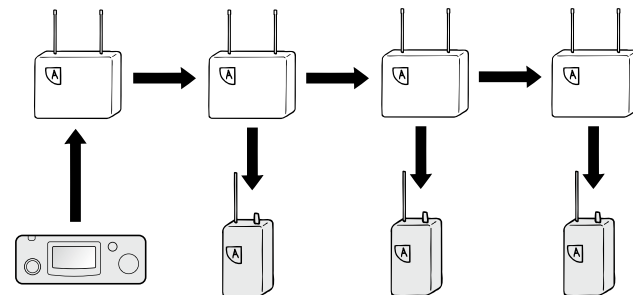
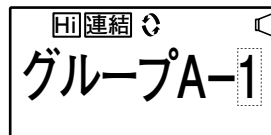
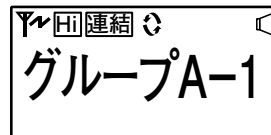
②ダイヤルを回して周波数帯を選択します。

参考　本機をリモコンとして中継器のチャンネルなどを遠隔操作できます。
詳しくは P.29 の説明をお読みください。

■連結子機通話

専用の中継器（ DJ-P113R など）を複数台使用して通話エリアを拡大できるモードです。チャンネルが同じであれば、他の無線機とも中継器を介して通話できます。グループトーク機能についてはあらかじめ最適なものがプリセットされています。本機は自動で最寄りの中継器を判別するため、使用者は中継エリア内を移動してもチャンネル変更する必要がありません。

重要
- このモードは一般的な中継通話対応の無線機では通話ができません。本機能に対応する専用の無線機が必要です。
- 中継器の設定や設置に関する説明や注意点については、中継器の取扱説明書をお読みください。

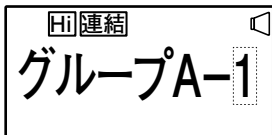
チャンネル：A ～ H

①あらかじめ中継器と本機のチャンネルを合わせます。中継器と本機の位置関係によっては最寄りの中継器を判別して個体番号が切替わります。

②送信元の「PTT」スイッチをオンにして送信状態にすると､アクセス音が鳴ります。鳴り終わってからマイクに向かって話します。

③送信元の音声が受信され、通話できているか確認します。

■個体番号

初期設定では、無線機が中継エリア内を移動すると自動で最寄りの中継器を判別します。ただし中継器の設置や運用条件によってはまれに誤判定するおそれがあります。もし移動範囲が特定され、いつも特定の中継器だけにアクセスする場合は、この機能で中継器の個体番号を固定するとアクセスがスムーズになり、誤判定も起こりません。

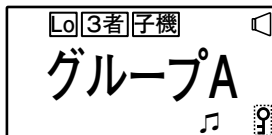
①待受状態で「戻る」キーを押すと、「」が消え、個体番号が設定されます。

②個体番号を変更する場合は、「CH」キーを２回押すと個体番号が点滅します。

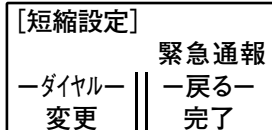
③点滅中にダイヤルを回して個体番号を選択します。

参考　個体番号が設定されると、本機をリモコンとして中継器のチャンネルなどを遠隔操作できます。詳しくは P.29 の説明をお読みください。

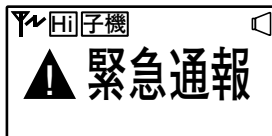
6 便利な機能

キーロック

使用時に誤ってキーが操作されることを防ぐ機能です。「戻る」キーを長押しするとキーロックが設定され、ディスプレイに「鍵アイコン」が点灯します。ダイヤル、「PTT」スイッチ･キー、「MIC」スイッチ、「電源」キー、短縮動作「緊急通報」は操作できます。解除するときは再度「戻る」キーを長押しして「鍵アイコン」を消してください。

短縮設定

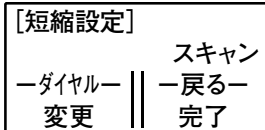
「機能」キーを長押ししたときの動作に緊急通報かスキャンのどちらかを割り合てられます。設定はセットモードのP.42を参照ください。

[短縮設定]
緊急通報
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

緊急通報

簡易的な緊急通報として交互通話・中継子機通話･デュアルオペレーション（メインのみ）で使用できます。
セットモードの短縮設定で、「緊急通報」を選択します。「機能」キーを長押しするとアラーム音を１０秒間送信します。受信した無線機からアラーム音が鳴ります。

参考 後述のセットモードで選べるサウンドを「ガイダンス」に設定していると、「異常が発生しました」とガイドが鳴ります。

スキャン

自動的にチャンネルを切替えて、通話しているチャンネルを探索する機能です。
交互通話・中継子機通話で使用できます。セットモードの短縮設定で「スキャン」を選択します。

[短縮設定]
スキャン
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

●開始

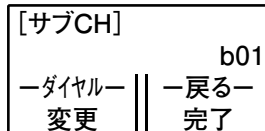
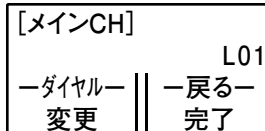
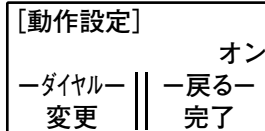
待受画面で「機能」キーを長押しするとスキャンを開始します。受信した信号でチャンネルが止まりますが、信号がなくなると約２秒後に自動的に再開します。スキャン実行中はセットモードに入れません。

●停止

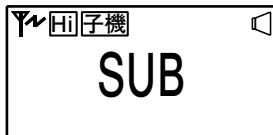
スキャン実行中に「機能」を長押しすると停止します。また「PTT」スイッチをオンにしても停止できます。別売マイクでは「PTT」キーを短く押すと停止できます。

VOX 機能使用時はスキャンできません。

デュアルオペレーション

交互通話・中継子機通話のみに有効です。スタンドマイクは本機能には向きません。別売マイクをお勧めします。
メイン / サブの２つのチャンネルを交互に受信し、それぞれで通信できます。
拡張セットモードのデュアルオペレーションの「動作設定」をオンにして、同じ項目の「メインCH」、「サブCH」をそれぞれ設定します。
その他に再開時間等、個別に設定できる以下項目もありますので、後述のセットモードをお読みください。

・メイングループ、サブグループ
・メインコンパンダー、サブコンパンダー
・メイン秘話設定、サブ秘話設定
・再開時間

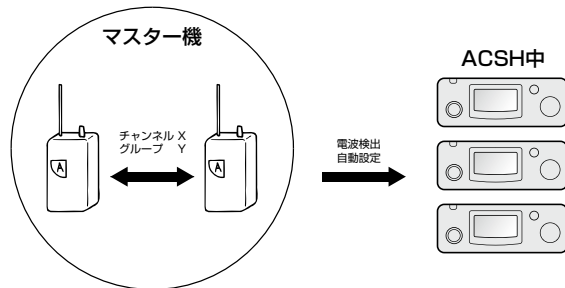
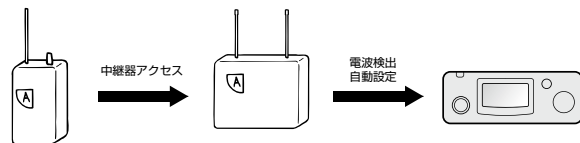
Bluetooth マイク使用時、本機能は動作しません。

送信
メイン CH で送信する場合は「PTT」キーを押します。待受画面に「MAIN」と表示されメイン CH で送信します。
サブ CH で送信する場合は「PTT」キーを二度押します。待受画面に「SUB」と表示されサブ CH で送信します。
通話が終わってから、再開時間が経過すると交互待受けを再開します。

受信
メイン CH を受信すると待受画面に「MAIN」と表示され、「ピッ」音が鳴ります。
サブ CH を受信すると待受画面に「SUB」と表示され､「ピピッ」音が鳴ります。

ACSH（アクシュ）

すでに使用している無線機（交互通話・中継子機通話は他社製も含む）のチャンネルとグループ番号をスキャンして、本機に同じ内容を自動設定する機能です。交互通話・2 者同時通話・3 者同時通話・中継子機通話に対応しており、あらかじめ通話方式を設定しておく必要があります。

重要
- 自動設定中は電源をオフにしないでください。オフにすると自動設定せずに停止します。
- 本機が電波を検出しているときは、マスター機のマイクから音声が入らないようにご注意ください。電波が乱されて正常に判定できないことがあります。
- 2 者 /3 者同時通話の場合でも、送信する無線機は 1 台です。最初に送信した人がマスター機となります。複数台で送信しないでください。
- グループ番号の検出中にトーン周波数が近いものは動作が不安定になったり、誤判定することがあります。（例：01 番：67Hz、39 番：69.3Hz）その場合グループ番号を 01 番～ 38 番の範囲に設定してからご使用ください。
- 本機を含む多機能機種には一部中継周波数帯の切替えができます。中継器の周波数を A（440MHz）に設定していると、自動設定できません。
- 自動設定後はキーロックがオンします。手動でチャンネルやグループ番号を変更したい場合は、キーロックをオフにします。

■交互通話・2 者同時通話・3 者同時通話のとき

■中継子機通話のとき

①マスター機と任意の本機を用意します。誤判定を防ぐために近距離で作業してください。

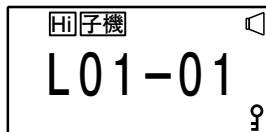
②本機の電源をオフにします。

ACSHモード

③「電源」キーを長押しし続けます。一度電源がオンしますが「ACSH モード」と表示されるまで約７秒間押し続けます。

④表示後、「設定もとなる～」がガイドされたらマスター機を送信します。

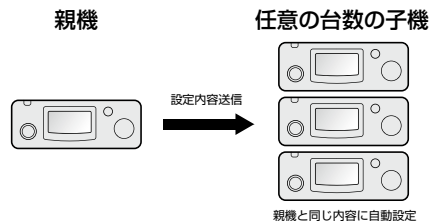
⑤数秒から最長で２分程度待ちます。マスター機の電波を検知すると「ピピ」音とともにランプが青色点滅し「ACSH 中」と表示されます。

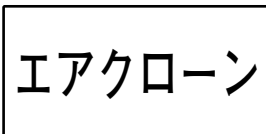
③設定が終わると「自動設定が完了しました」とガイドし、ランプが緑色点滅し、設定チャンネル･グループ番号が表示されます。キーロックがオンになり、自動的に電源がオフします。電源をオンにしマスター機と通話できるか確認します。

注意 デュアルオペレーション中、本機能は動作しません。

エアクローン

セットモード項目まで含めて全て設定済みの本機を親機として、状態が異なる別の DR-PM300SE に親機の設定内容を送信し、自動設定する機能です。異なる機種とはクローンできません。親機の近くに集めておけば、複数の子機を一度にクローンできます。

重要
- 自動設定中は電源をオフにしないでください。オフにすると自動設定せずに停止します。
- 自動設定後はキーロックがオンします。手動でチャンネルやグループ番号を変更したい場合は、キーロックをオフにします。

■動作の流れ

①親機と任意の子機を用意します。
誤判定を防ぐために近距離で作業してください。

②親機と子機の電源をオフにします。

エアクローン

③「機能」キーと「電源」キーを同時に長押押しし続けます。電源がオンしますが「エアクローン」と表示されるまで約７秒間押し続けます。

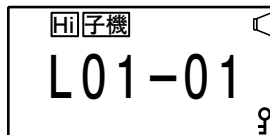
送信（親機）
親機の「PTT」スイッチをオンにすると「設定内容を無線通信します」とガイドし、設定情報を送信します。
送信中はランプが赤色点滅し、送信中の画面が表示されます。停止させる場合は、「PTT」スイッチを再度オンにします。

エアクローン中
設定を送信中

受信（子機）
設定情報を受信するとランプが青色点滅し受信中の画面が表示されます。設定時間は最長で約 10 秒です。設定が終わると「自動設定が完了しました」とガイドし、ランプが緑色点滅し設定情報が表示されます。その後キーロックがオンになり、自動的に電源がオフします。

エアクローン中
設定を受信中

Hi 子機
L01-01

確認（親機ー子機）
設定が完了したら親機の電源をオフにします。子機は電源をオンにし、親機と通話できるか確認します。

中継リモコン

本機をリモコンとして中継器のチャンネルを遠隔設定できる機能です。

> **重要** 中継器の設定に関する説明や注意点については、中継器の取扱説明書をお読みください。

■動作の流れ

①本機の通話方式を中継子機通話に設定します。あらかじめチャンネルとグループ番号を設定します。
誤判定を防ぐために近距離で作業してください。

リモコン中

②待受画面で「ＣＨ」キーを約２秒間長押しします。

③送信中はランプが赤色点滅し、「リモコン中」と表示されます。停止させる場合は、②と同様の操作で待受画面に戻ります。

リモコン完了

④設定が完了すると「プルル」音とともにランプが緑色点滅し、「リモコン完了」と表示されます。その後自動的に待受画面に戻ります。
中継器にアクセスできるか確認します。

> **参考** 「中継器アラーム」などの設定値もリモコンで設定することができます。
> 詳しくは P.40 の説明をお読みください。

連結中継リモコン

本機をリモコンとして専用の中継器（DJ-P113R など）のチャンネルを遠隔設定できる機能です。

> **重要** 中継器の設定に関する説明や注意点については、中継器の取扱説明書をお読みください。

■動作の流れ

①本機の通話方式を連結子機通話に設定します。あらかじめチャンネルと個体番号を設定します。
誤判定を防ぐために近距離で作業してください。

リモコン中

②待受画面で「ＣＨ」キーを約２秒間長押しします。

③送信中はランプが赤色点滅し、「リモコン中」と表示されます。停止させる場合は、②と同様の操作で待受画面に戻ります。

リモコン完了

④設定が完了すると「プルル」音とともにランプが緑色点滅し、「リモコン完了」と表示されます。その後自動的に待受画面に戻ります。
中継器にアクセスできるか確認します。

> **参考** 中継器の「ビーコン間隔時間」などの設定値もリモコンで設定することができます。詳しくは P.40 の説明をお読みください。

ノイズキャンセラー

音声以外のノイズを除去して音声の明瞭度を上げる機能です。拡張セットモードの通信設定の「ノイズキャンセラー」でオフ /MIC/SP/ALL の４種類の中から設定します。

［ノイズキャンセラー］
MIC
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

• MIC：マイクから入るノイズを除去します。

• SP ：スピーカーから鳴る音声のノイズを除去します。

• ALL：MIC / SP 両方が機能します。

注意
- 音声の周波数を通過させ、それ以外は除去するタイプのノイズキャンセラーです。
- 本機能をオンにすると、音声は若干変化します。音楽やチャイムは正しい音に聞こえません。
- 突発的な物音などはノイズキャンセルできません。
- 受信中に受信音の大きさが変化することがあります。一定のビープ音や強い信号を受信すると、強弱を一定レベルにして聞きやすく自動調整するためです。
- 音声周波数をフィルターする原理上、騒音が多い場所では送受信音声が小さくなったり、少ない場所では歪んだり、ハウリングが発生したりすることがあります。そのようなときはオフにしてお使いください。

Bluetooth 機能

本機は最大 8 台までの弊社製 Bluetooth 対応アクセサリーを登録できます。複数のアクセサリーを登録するときは、正しく動作することを確認しながら 1 台ずつ個別に行ってください。複数台同時接続はできません。また、他社製の Bluetooth 対応イヤホン、イヤホンマイク類はペアリングできません。

■Bluetooth 対応イヤホンマイク、スピーカーマイク

本機の Bluetooth 機能に対応するマイクを使って通話ができます。
- Bluetooth の通信範囲は約 10m（目安）です。マイクの電波が本機に届く範囲は通話できるので、無線機の前から離れて動き回ることができます。
- 登録台数が８台を超えるとペアリング情報が古いものから自動で削除されます。
- 下記の機能は Bluetooth に接続していると使えません。Bluetooth の設定をオフにしたうえで、有線式のマイクをお使いください。
  - デュアルオペレーション
  - コールバック
- Bluetooth 方式と有線のねじ込みジャックに接続するスピーカーマイクを併用すると、両方のスピーカーから音声がでます。どちらかの音声を消す設定や操作はありません。有線式スピーカーマイク接続時は常に有線式スピーカーマイクのスピーカー出力が ON となります。音声を聞きたくない場合は、有線式スピーカーマイクはお使いにならないでください。

注意
- Bluetooth マイクの音量は本機のダイヤルでも調整できます。適切な音量に合わせてください。
- 本機音量が極端に小さい、または極端に大きい場合、Bluetooth マイクの音量では適切に調整できなくなるため、ご注意ください。
- 受信中に受信音の大きさが変化することがあります。一定のビープ音や強い信号を受信すると、強弱を一定レベルにして聞きやすく自動調整するためです。

■ペアリング

ペアリングとはマイクなどの Bluetooth 対応アクセサリー（以下、アクセサリー）と本機をお互いに登録し、接続する操作です。

重要
- 複数の Bluetooth 機器がある場所では、ペアリングしたいアクセサリーを正しく検索できないことがあります。このような時は必要なアクセサリーだけになるように、使用していない Bluetooth 機器の電源をオフにするか、それらの機器から離れてください。
- リセットすると登録されたペアリング情報は全て消え、復元できなくなります。あらためて登録したい機器とペアリングしてください。
- 8 台を超えてペアリングすると、古いペアリング情報は自動で消えます。ペアリング情報が消えたら、再度ペアリングしてください。
- 操作を始める前に、Bluetooth マイクのバッテリーを充電して電源が切れないよう、ご注意ください。
  イヤホンマイクであれば、イヤホンを耳に装着します。

1.本機をペアリングモードにする

① 拡張セットモードの Bluetooth を「オン」にします。待受画面に「ᛒ」アイコンが表示され、ランプが赤色・緑色交互点滅します。
※ ２台目以降のアクセサリーとペアリングする場合、以下をお読みください。

● ２台目以降のペアリングモード

① 拡張セットモードの Bluetooth を「オン」にします。待受画面に「ᛒ」アイコンが表示されます。
②一度電源をオフし、「CH」キーと「電源」キーを同時に長押しし続けます。電源がオンしますが、ランプが赤色・緑色交互点滅するまで押し続けます。

2.アクセサリーをペアリングモードにする

操作の前にアクセサリーの取扱説明書もお読みください。
① インジケーターがオレンジ色に点灯後、緑で早く点滅するまで「電源」ボタンを長押しします。
②「ペアリング中です」と音声が聞こえ、インジケーターが緑で早く点滅したら、「電源」ボタンから手をはなします。
※ 弊社製のアクセサリーを初めてご使用になるときは電源をオンするだけで、ペアリングモードになります。
※ ペアリングできる無線機が見つからない状態が５分つづくと、電源がオフします。

3.本機とアクセサリーをペアリングする

上記の操作で本機とアクセサリーが共にペアリングモードになると自動で接続します。接続できたら本機の Bluetooth アイコンが ᛒ から ᛒ に変わります。

参考
ペアリング後の動作について、一度ペアリングしたアクセサリーとはそれ以降毎回ペアリングする必要はありません。
下記の条件を満たしている場合は自動で接続します。
- 本機の Bluetooth 機能が「オン」
- 本機が待ち受け状態
- アクセサリーが「オン」

注意
Bluetooth の通信は、周辺機器の影響で通信範囲が著しく変化したり、ペアリングが切断されることがあります。
- 電子レンジなど
- 無線 LAN
- 他の Bluetooth 機器

このような場合は、ほかのワイヤレス通信を停止させたり、電子レンジなどの使用を中止したり、周辺機器との距離をはなすなどしてください。
また、Bluetooth 機器と本製品の距離をできるだけ近づけると、通信状況が改善することがあります。

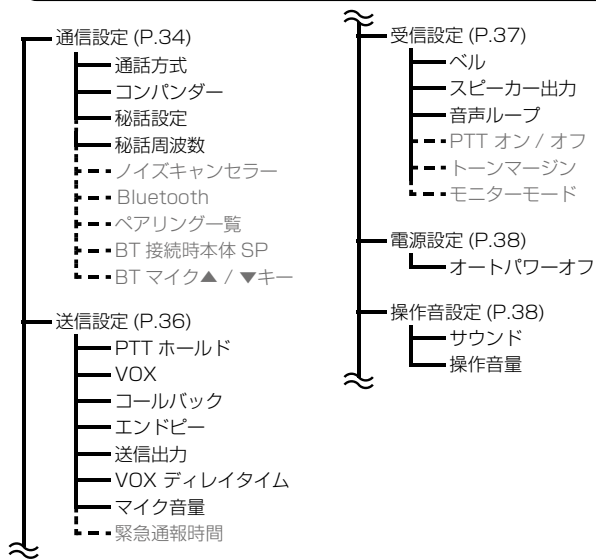
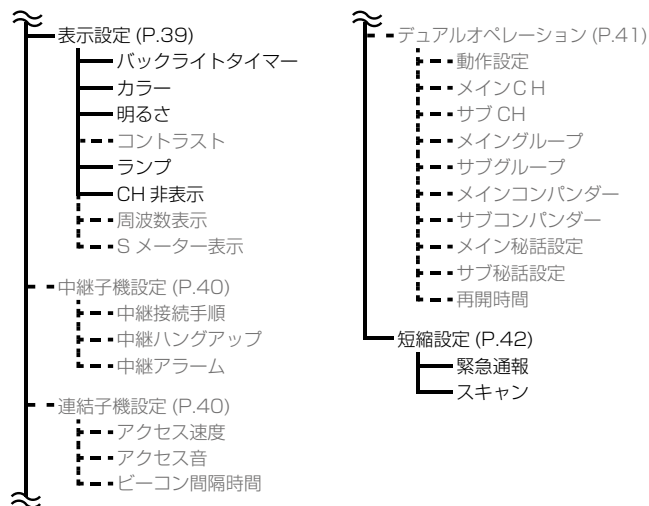
・・・・・・・・・・・・・・・ リセット ・・・・・・・・・・・・・・・

電源をオフにし､「機能」キーと「戻る」キーを押しながら電源をオンにします。
「RESET」が表示されたら「機能」キーを押すと、すべての設定が初期化されます。
「機能」キー以外のキーを押すとリセット操作をキャンセルして起動します。

```
RESET
実行→機能キー
中止→その他のキー
```

参考　拡張セットモードを含めて初期化されます。

7 セットモード

セットモード一覧

注意
- 点線・グレー表示の部分は次のページの拡張セットモードにて設定操作すると表示されます。
- Bluetooth がオンの場合、デュアルオペレーションやコールバックは動作しません。

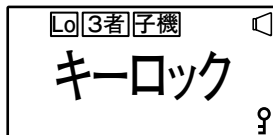
セットモード基本操作

本機をもっと使いやすくするために、各種機能の動作をカスタマイズできます。

■セットモードの設定方法

①待受画面で「機能」キーを押してセットモードに入ります。
②ダイヤルを回して設定したい項目に合わせ、「機能」キーで選択します。
③設定した項目を開いたら、ダイヤルを回して設定値を変更します。
④「戻る」キーを押すと一段階戻ります。「電源」キーや「PTT」キーを押したり「PTT」スイッチをオンしたりすると、確定して待受画面に戻ります。

■拡張セットモードの設定方法

①待受画面で「戻る」キーを長押しします。
②「キーロック」と表示中に「戻る」キーを５回連続で押すと、「ピピ」音とともに拡張セットモードがオンになります。
③セットモードに入ると、設定項目が増えていることを確認します。
④拡張セットモードをオフにする場合は、同様の操作を繰り返します。

参考　拡張セットモード時はセットモードに入ったときに [セットモード＋] と表示されます。

注意
・セットモード中は、PTT および各種機能による送信はできません。
・「PTT」スイッチの動作原理上、セットモード画面でオン（点灯）にして確定すると待受画面に戻りますが、送信はしませんのでご注意ください。待受画面でオフ（消灯）にしてからオン（点灯）にすると送信します。

セットモード

セットモードで設定できる機能の内容と、設定値の一覧です。
***　マークが付いているのは拡張セットモードの項目です。**
****　マークが付いているのは Bluetooth に対応していない項目です。**

■通信設定

●**通話方式**
通話方式を設定します。
初期値は３者同時通話です。

交互通話 / ２者同時通話 / ３者同時通話
４者同時通話 / 中継子機通話
連結子機通話

[通話方式]
３者同時通話
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

●**コンパンダー**
通話中に聞こえるバックノイズを低減できます。初期値は AUTO です。
初期値だと３者 / ４者同時通話では自動的にオンします。

オフ / オン /AUTO

[コンパンダー]
AUTO
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

●**秘話設定**
設定すると他の人には通話内容が聞かれにくくなります。セキリティとしては低いものです。初期値はオフです。

オフ / オン

[秘話設定]
オフ
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

●**秘話周波数**
通話したいグループ全員同じ周波数に設定します。初期値は 3. 4kHz です。

2. 7 ～ 3. 4kHz（0.1kHz ステップ）

[秘話周波数]
3.4kHz
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

● **ノイズキャンセラー ***
音声以外のノイズを除去して明瞭度を上げる機能です。初期値はオフです。

オフ / MIC / SP / ALL

[ノイズキャンセラー]
オフ
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

● **Bluetooth ***
弊社製 Bluetooth 対応アクセサリーと接続できます。初期値はオフです。

オフ / オン

[Bluetooth]
オフ
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

● **ペアリング一覧 ***
Bluetooth をオンにすると、過去にペアリングしたアクセサリー名が表示されます。

[ペアリング一覧]
ALINCO-eme80bm
ALINCO-ems87b

ペアリング一覧から接続または削除したいアクセサリー名をダイヤルキーで選択し「機能」キーを押します。接続するときは「機能」キーを押し、接続をキャンセルするときは再度「機能」キーを押します。削除するときは「機能」キーを長押しします。

ALINCO-eme80bma

機能キーで接続
機能長押で削除

● **BT 接続時本体 SP ***
Bluetooth 使用時に本機スピーカーから受信音を鳴らす機能です。初期値はオフです。オンにすると両方から鳴ります。Bluetooth 側の受信音声を切ることはできません。
ボリュームを下げてお使いください。

オフ / オン

[BT接続本体SP]
オフ
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

● **BT マイク▲ / ▼キー ***
弊社製 Bluetooth 対応アクセサリーの「▲ / ▼」キーの割り当てを設定できます。初期値は音量変更です。

音量変更 / チャンネル変更

[BTマイク▲/▼キー]
音量変更
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

■送信設定

●PTT ホールド (別売マイク使用時)

「PTT 」キーを一度押すと送信を継続する機能です。再度押すと待受状態に戻ります。初期値はオフです。AUTO にすると 2 者～ 4 者同時通話時に自動的に本機能が動作します。

オフ / オン / AUTO

注意
- スピーカーマイクは、本機能が動作しません。
- 「PTT」スイッチの動作原理上、AUTO の場合は送信状態から再度オン（点灯）にすると待受状態に戻りますが、送信はしませんのでご注意ください。

●VOX

「PTT」スイッチをオンせずに、マイクに向かって話すと、自動的に送信する機能です。大きい声で話す場合は Low 小さい声で話す場合は High に設定してください。初期値はオフです。
交互通話・中継子機通話で使用できます。

オフ / Low / High

注意
- スピーカーマイク接続時や PTT オフ設定時は、本機能が動作しません。詳しくは P.45 のオプション一覧をお読みください。
- 周囲の環境音で送信してしまう場合は Low に設定してください。

●コールバック **

送信中にイヤホンから自分の送信音声が聞こえてくる機能です。正しく送信できているか確認しながら通話できます。初期値はオフです。

オフ / オン

注意 スピーカーマイクは 、ハウリングが起こるため使用できません。

●エンドピー

「PTT」スイッチをオンからオフにしたときに「ピッ」音が鳴り送信が終わったことを相手にお知らせする機能です。
送信側で設定してください。
エンドピピにすると、受信終了時に信号レベルに合わせてビープ音が鳴ります。ビープ音は３段階あり強（ピッ）中（ピピッ）弱（ピピピッ）と鳴ります。
受信側で設定してください。
初期値はオフです。

[エンドピー]
オフ
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

オフ / オン / エンドピピ

注意
- エンドピピはテールノイズキャンセラーを搭載した弊社品または、グループトークを設定した無線機から送信された電波が動作条件となります。
- トーンマージンをオンにすると、エンドピピは正しく動作しません。

●送信出力

送信出力を設定できます。初期値は AUTO です。通話方式に合わせて送信出力が自動で切替わります。High にすると 3 分に一回、2 秒間タイムアウトするため、2 者～ 4 者同時通話で連続送信ができなくなります。
通常は AUTO のまま使用してください。

[送信出力]
AUTO
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
消去 ‖ キャンセル

Low / High / AUTO

参考 初期値 AUTO にすると 2 者同時通話 (チャンネル：b12 ～ b29)・3 者 / 4 者同時通話について、タイムアウト制限がない連続送信ができます。

●VOX ディレイタイム

VOX で送信中に息継ぎなどで声が途切れても送信状態を保持する時間を設定できます。初期値は１秒です。

１ ～ ５ 秒

[VOXディレイタイム]
1秒
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

●マイク音量 (マイクゲイン)

相手に聞こえる声が小さいときや話し声が歪むときに調整します。
通常は初期値のままスタンドマイクの「マイク音量切替」を調整してください。初期値は４ です。歪むときは小さく、声が小さいときは大きくします。

１ ～ ７

[マイク音量]
4
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

●緊急通報時間 *

緊急通報の送信時間を設定できます。初期値は１０秒です。

10 ～ 60 秒（10 秒ステップ）

[緊急通報時間]
10秒
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

■受信設定

●ベル (着信通知)

交互通話、中継子機通話向けの機能です。着信をベル音とアイコンでお知らせします。通話中は鳴りません。しばらく待ち受けが続くと動作を再開します。初期値はオフです。

オフ / オン

[ベル]
オフ
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

●スピーカー出力

どのスピーカーを鳴らすか設定します。初期値は本体です。

本体 / スピーカーマイク / ALL

[スピーカー出力]
本体
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

●音声ループ

２者同時通話時に設定することで、第３者が通話を聞けるようになります。また 3/4 者同時通話は設定しなくても同じチャンネルグループにすれば全員の通話が聞こえます。
初期値はオフです。

オフ / オン

[音声ループ]
オフ
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

●PTT オン / オフ *

送信を禁止して受信専用にする機能です。オフにすると VOX 送信もできなくなります。本機能をオフにして PTT 操作すると「PTT OFF」と表示されます。初期値はオンです。

オフ / オン

[PTTオン/オフ]
オン
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

●トーンマージン＊

グループトーク機能の信号の読み取り精度を調整できます。弊社製の旧型機や他社製品とグループトークでの通話が不安定な場合、お試しください。通常はオフのまま使用してください。
初期値はオフです。

［トーンマージン］
オフ
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

オフ / オン

注意
・本機能をオンにする前に、グループ番号 02 ～ 38 番をお試しください。
・本機能をオンにすると、他のグループ番号の声が聞こえたり、受信終了時に「ザッ」音が聞こえることがあります。

●モニターモード＊

交互通話、中継子機通話専用の機能です。待受画面で「戻る」キーと「CH」キーを同時に押すとスケルチを開放して「ザー」音が聞こえます。受信状態のチェックなど管理者向けの機能です。
通常はオフのまま使用してください。
初期値はオフです。

［モニターモード］
オフ
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

オフ / オン

注意
・2 者～ 4 者同時通話・連結子機通話・デュアルオペレーションの場合、本機能は動作しません。
・本機能動作中は、各種機能による送信はできません。

■電源設定

●オートパワーオフ

電源の切り忘れを防ぐ機能です。無操作の状態が設定時間続くと、自動的に電源が切れます。通常はオフのまま使用してください。

［オートパワーオフ］
オフ
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

オフ / 30 分 / 1 時間 / 1 時間 30 分

■操作音設定

●サウンド

本機の操作音や警告音の種類が選べます。初期値 ALL では全ての操作音と音声ガイドが鳴り、オフは一切鳴りません。

［サウンド］
ALL
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

オフ / ビープ / ガイダンス / ALL

注意 本機能をオフにすると、緊急通報やお願いコールのお知らせも鳴らなくなりますので、ご注意ください。

●操作音量

本機の通話の音量と操作音量は連動しません。操作音とガイドの音量は 5 段階で設定できます。
初期値は３です。

［操作音量］
3
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

1 ～ 5

■表示設定

●バックライトタイマー

液晶部の照明は自動で消せます。
オフは常時消灯、オンは常時点灯、秒はキーやダイヤル操作のあと照明が自動で消えるまでの時間です。
初期値はオンです。

オフ / 5 秒 /10 秒 /30 秒 /60 秒 / オン

[バックライトタイマー]
オン
ーダイヤルー || ー戻るー
変更 || 完了

●カラー

ディスプレイのバックライトの色を設定します。初期値はホワイトです。

ホワイト / レッド / ブルー / グリーン
パープル / イエロー / ライトブルー

[カラー]
ホワイト
ーダイヤルー || ー戻るー
変更 || 完了

●明るさ

ディスプレイの明るさを設定します。
初期値は 5 です。

オフ /1 ～ 5

[明るさ]
5
ーダイヤルー || ー戻るー
変更 || 完了

●コントラスト *

ディスプレイの濃さを設定します。
初期値は 3 です。

1 ～ 5

[コントラスト]
3
ーダイヤルー || ー戻るー
変更 || 完了

●ランプ

LED ランプの明るさを設定します。初期値は High,Low は暗くなります。オフは常時消灯です。故障と間違えるので通常は使いません。

オフ / Low / High

●CH 非表示

ＣＨ番号などの表示を隠す設定です。初期値はオフで常時表示、秒はキーやダイヤル操作のあと表示が「----」に変わるまでの時間です。操作をすれば表示は戻ります。初期値はオフです。

オフ /5 秒 /10 秒 /30 秒 /60 秒

[CH非表示]
オフ
ーダイヤルー || ー戻るー
変更 || 完了

●周波数表示 *

交互通話・2 者同時通話・中継子機通話連結子機通話で使用できます。CH 表示の代わりに周波数を表示する機能です。初期値はオフです。

オフ / オン

[周波数表示]
オフ
ーダイヤルー || ー戻るー
変更 || 完了

●S メーター表示 *

待受画面左下に受信信号の強度を示すＳメーターを表示します。標準のアンテナアイコンは消えません。
初期値はオフです。

オフ / オン

[Sメーター表示]
オフ
ーダイヤルー || ー戻るー
変更 || 完了

■中継子機設定 *

●中継接続手順 *

中継アクセス時の自動接続手順を解除する機能です。通常はオンで使用してください。初期値はオンです。

オフ / オン

[中継接続手順]
オン
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

●中継ハングアップ *

無線機からの送信が終わっても中継動作を保持する時間を設定できます。
初期値はオフです。

オフ / 0.5 秒 / 1 秒 / 2 秒

[中継ハングアップ]
オフ
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

●中継アラーム *

中継動作終了時に中継器からアラーム音を送信する機能です。
初期値はオフです。

オフ / オン

参考 これらの項目は「中継リモコン」機能で遠隔設定もできます。(P.29)

■連結子機設定 *

●アクセス速度 *

混信が全くないような電波環境が良いところでは連結中継のパフォーマンスを上げることができます。子機と中継器すべてでこの項目をオンにします。混信などの干渉を受ける場所でオンにすると中継器の誤判定などが起き、パフォーマンスが低下します。初期値はオフです。オンにしたら十分に通話テストして異常がないか確認ください。

オフ / オン

[アクセス速度]
オフ
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

●アクセス音 *

通話開始と終了時のビープ音の動作を設定できます。初期値は ALL です。

オフ / アクセス音 / エンドピー / ALL

[アクセス音]
ALL
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

●ビーコン間隔時間 *

中機器が送信するビーコンの間隔時間を設定します。通常は 10 秒で使用してください。初期値は 10 秒です。

オフ / 5 / 10 ～ 60 秒
(10 秒ステップ)

[ビーコン間隔時間]
10秒
ーダイヤルー ‖ ー戻るー
変更 ‖ 完了

参考 アクセス速度とビーコン間隔は「中継リモコン」機能で遠隔設定できます。(P.29)

注意 間隔時間を短くすると最寄りの中継器を判定する精度が高くなりますが、通話時に頭切れするおそれがあります。間隔時間を長くすると最寄りの中継器を判定する精度が低くなります。実用される前に十分に実験してから確認してください。

■デュアルオペレーション ***

● **動作設定 *****
デュアルオペレーションするときオンにします。初期値はオフです。

オフ / オン

本項目のメイン＊＊、サブ＊＊は、それぞれに設定する機能を表します。グループトーク番号、コンパンダー、秘話の各種設定は通常の運用モードとは別に設定できます。

[動作設定]
オフ
ーダイヤルー 変更 || ー戻るー 完了

● **メイン CH *****
メイン CH を設定します。
初期値は L01 です。

L01 〜 L09、b01 〜 b11
L10A 〜 L18A、b12A 〜 b29A**
L10B 〜 L18B、b12B 〜 b29B**

[メインCH]
L01
ーダイヤルー 変更 || ー戻るー 完了

● **サブ CH *****
サブ CH を設定します。
初期値は L01 です。

L01 〜 L09、b01 〜 b11
L10A 〜 L18A、b12A 〜 b29A**
L10B 〜 L18B、b12B 〜 b29B**

[サブCH]
L01
ーダイヤルー 変更 || ー戻るー 完了

● **メイングループ *****
メインCHのグループトーク番号を設定します。初期値は 01 です。

01 〜 50

[メイングループ]
01
ーダイヤルー 変更 || ー戻るー 完了

● **サブグループ *****
サブCHのグループトーク番号を設定します。初期値は 01 です。

01 〜 50

[サブグループ]
01
ーダイヤルー 変更 || ー戻るー 完了

● **メインコンパンダー *****
メインコンパンダーを設定します。
初期値はオフです。

オフ / オン

[メインコンパンダー]
オフ
ーダイヤルー 変更 || ー戻るー 完了

● **サブコンパンダー *****
サブコンパンダーを設定します。
初期値はオフです。

オフ / オン

[サブコンパンダー]
オフ
ーダイヤルー 変更 || ー戻るー 完了

● **メイン秘話設定 *****
メイン秘話を設定します。
初期値はオフです。

オフ / オン

[メイン秘話設定]
オフ
ーダイヤルー 変更 || ー戻るー 完了

● **サブ秘話設定 *****
サブ秘話を設定します。
初期値はオフです。

オフ / オン

[サブ秘話設定]
オフ
ーダイヤルー 変更 || ー戻るー 完了

● **再開時間設定 *****
デュアルオペレーションで受信終了後に動作再開するまでの時間を設定します。初期値は 5 秒です。

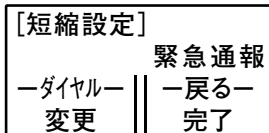
1 〜 5 秒

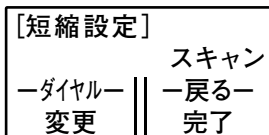
[再開時間設定]
5秒
ーダイヤルー 変更 || ー戻るー 完了

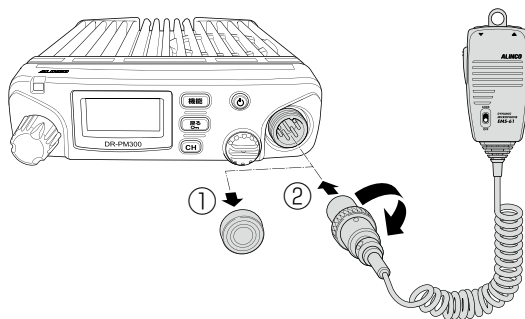
■短縮設定

P.26 で説明した、機能キー長押し時の動作です。

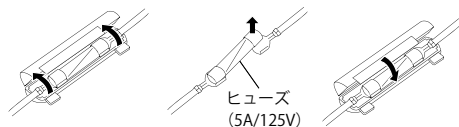
●緊急通報

短縮設定に緊急通報を割り当てます。
初期値は緊急通報です。

●スキャン

交互通話、中継子機通話専用の機能です。管理者が比較的空いた CH を探すなどの用途に使うものです。一般のユーザーは自動でチャンネルが変わると故障と思われるのでご注意ください。

■別売マイクの取付け

右側のゴムの端子カバーを外します。右側のマイクコネクターの溝の向きに注意しながらコネクターを挿入します。リングを止まるまで回してしっかり固定します。外したゴムキャップは必ず保管してください。マイクを外したらキャップを戻してください。

■ヒューズの交換

本体の電源ケーブルはヒューズ (5A/125V) が 1 本使われています。
ヒューズが切れて電源が入らなくなったときは、電源ケーブルの接続を外して不具合の原因を取除いたあと下図のように取替えてください。

注意 本体側の電源ケーブルのヒューズは 5A、バッテリー側の電源ケーブルのヒューズは 15A です。

故障とお考えになる前に

「故障かな？」と思われたら、まず以下の「処置」をお読みください。
マイクやケーブルが原因の不具合も有りますので、必ずアクセサリーも点検してください。設定の間違いなどはリセットをすると回復する場合がありますが、意図した設定まで初期化されるので注意が必要です。

※「何か間違った操作をして設定がおかしくなった…」という時は、DR-PM300SE 同士であれば、正常に動く個体を親にして P.28 のエアクローンをお試しください。

症状	原　因	処　置
電源を入れても、ディスプレイに何も表示されない。	電源ケーブルが接触不良を起こしている。	ケーブルやヒューズに異常が無いか点検してください。
	電源の (＋) 端子と (−) 端子の接続が逆になっている。	電源ケーブル (付属品) の赤色側を (＋) 端子、黒色側を (−) 端子に接続してください。
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を除いたあと、指定容量のヒューズと交換してください。
ディスプレイの表示が暗い。	明るさ設定が低くなっている。	明るさ設定を高く設定してください。
ディスプレイの表示が異常になっている。	CPU が誤作動している。	リセットしてください。 電源ケーブルを一旦抜いて再度接続してください。
スピーカーから音が出ない。 受信できない。	音量が低すぎる。音量設定値が不適切 (P.15)	適切な音量にレベルを変えてください。
	送信状態になっている。	「PTT」スイッチを操作して受信にしてください。
	各種動作設定のスピーカー出力設定が不適切。(P.37)	設定を見直してください。
	秘話が一致していない。	秘話を一致させる、もしくは送信側と受信側の秘話をオフにしてください。

症状	原　因	処　置
送信ができない。送信しても応答がない。	「PTT」や「MIC」スイッチが確実に押されていない。	「PTT」や「MIC」スイッチを押してランプを赤色点灯させてください。
	チャンネル（周波数）や通話方式が間違っている。	相手と通信可能なチャンネル・設定に正しく合わせてください。
	キャリアセンスが働いている。	他の電波がなくなるのを待ってから送信してください。
キーによる操作ができない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除してください。
Bluetooth アクセサリーが動作しない。	ペアリングされていない。	ペアリング方法に従ってペアリングしてください。
	他のBluetoothアクセサリーと接続されている。	使用しない Bluetooth アクセサリーの電源はオフにしてください。

■ 無線部と操作部の間の通信に異常が出ると「通信エラーです」と表示が出ます。連結ケーブルの断線、コネクター接続などの異常がないか点検してください。ケーブルや接続に問題が無ければ本体の異常が考えられます。次項をお読みの上、販売店か弊社サービスセンターにご相談ください。フリーダイヤルは裏表紙に記載しています。

アフターサービスについて

■保証書

保証書は購入店名、購入日の記入（または専用ステッカー貼付けなど）と、記載の製造番号をお確かめの上、本書と一緒に大切に保管してください。記載がないときは販売店発行のレシート、納品書など購入店と購入日が証明できる書類を一緒に保存してください。購入店と購入日が証明できない場合は製品保証が無効となりますのでご注意ください。

■保証期間

同梱の保証書に記載されている期間です。
正常な使用状態で上記の期間中に万一の故障が生じた場合は、お手数ですが製品に有効な保証書を添えて、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。保証書の規定にしたがって無償修理いたします。

■保証期間が過ぎたら

お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有償で修理いたします。
アフターサービスや製品に関するよくあるご質問は「アルインコ　電子　FAQ」をキーワードにネット検索してください。
ご不明な点がありましたら、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。

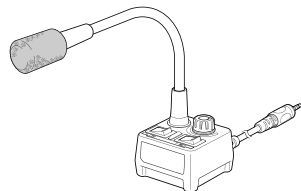
■製造終了製品に対する保守年限に関して

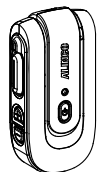
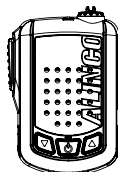
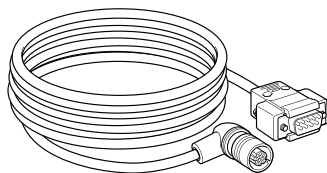
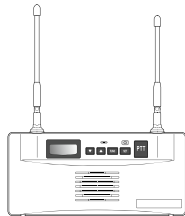
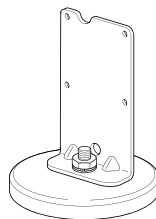
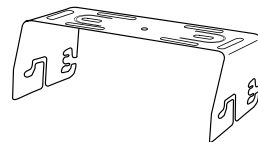
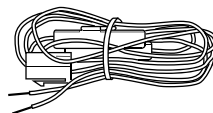
弊社では製造終了後も下記の期間、製品をお使い頂けるように最低限必要な補修用部品を常備しています。ただし不測・不可抗力の事態により在庫部品に異常が発生したような場合はアフターサービスをご提供できなくなることもありますので、あらかじめご了承ください。

補修部品の保有期間は、生産終了後 5 年です。

■注意事項

- 改造、分解されたり銘板やラベル類が剥がされた製品は、修理をお断りすることがあります。
- 修理見積や保険用の証明書類の発行は、一部有償です。
- 本製品には明確に定められた製品寿命はありません。
- 弊社の製品保証には、取付けや取外しに掛かる費用は含まれていません。
- 樹脂成型時に細かいラインが入ることがありますが、異常ではありません。
- 印字について美観上の問題が無い範囲でわずかなムラがあります。

9 オプション一覧

・スタンドマイク（ねじ込み式）
EMS-924（スペア）

・マイク（8 ピン）
EMS-61

・イヤホンマイク
EME-80BMA Bluetooth 対応
耳掛けイヤホン付属

・IP67 相当防水スピーカーマイク
EMS-87B Bluetooth 対応
（交互通話・中継子機通話専用）

・連結ケーブル 5m
EDS-40S05（スペア）
・連結ケーブル 10m
EDS-40S10

・屋内設置型中継器
DJ-P113R 中継機能全てに対応

・無線部ブラケット
EBC-66（スペア）

・モービルブラケット
FM0078Z(スペア)
止めねじ AE0012 は付属なし

・電源ケーブル
UA0038AY(スペア)
・セパレートキット
EDS-9
・セパレート・カプラー
EDS-34

マイクキャップ、取付ネジ等の付属品も補修用部品としてお求めになれます。
ご購入店へご注文ください。

注意
・EMS-62 や EMS-71、EME-63A/64A 等のねじ込みプラグを採用する携帯型無線機用のマイク類はお使いになれません。音声出力が異なるため、音量を上げるとスピーカーが故障します。
・EMS-87BNC（Bluetooth・ノイズキャンセル対応）もペアリングすればお使いになれますが、内蔵のノイズキャンセル機能は本機では動作しません。本機用には必ず EMS-87B と指定してお買い求めください。

10 定 格

送受信周波数	L チャンネル	421.8125 ～ 421.9125MHz（B）
		422.2000 ～ 422.3000MHz
		440.2625 ～ 440.3625MHz（A）
	b チャンネル	421.5750 ～ 421.7875MHz（B）
		422.0500 ～ 422.1750MHz
		440.0250 ～ 440.2375MHz（A）
制御チャンネル	421.8000MHz、422.1875MHz、440.2500MHz	
電波型式	F3E　F1D	
送信出力	10mW　1mW	
受信感度	− 14dBu（12dB SINAD）	
音声出力	2W 以上（本体 / 外部）、800mW 以上（スピーカーマイク）	
通話方式	単信、半複信、複信	
定格電圧	13.8V ± 10% または、26,4V ± 10%	
消費電流	350mA 以下（送信時） 600mA 以下（受信時） 300mA 以下（待ち受け時）	
動作温度範囲	− 10℃ ～ ＋ 50℃	
外形寸法 W × H × D	無線部	59.8 × 411.0 × 34.0mm
	操作部	140.0 × 40.0 × 178.0mm
質量（約）	約 2600g （無線部ブラケット、連結ケーブル 5m、スタンドマイク含む）	

外郭保護性能

＊マグネット基台と EDS-40 接続ケーブルを正しく接続した無線部：IP66/67

IP6X：ベビーパウダー状の粉を 1 立方メートル当りたり 2kg の濃度で浮遊させた試験器内に 8 時間放置して、製品内部に一切粉塵が入っていないことを確認

IPX6：既定の条件の激しい水流をホースで全方向から掛けても悪影響を受けない耐水性を確認（IPX5 は 6 より条件の緩やかな噴流を掛ける）

IPX7：室温の静水の真水の水深 1m に製品をゆっくり水没させて静止状態で 30 分放置しても中に水が入らない耐浸性を確認

EDS-40 ケーブルを接続しないと防水にはなりません。

＊操作部と EMS-924 マイク：耐塵・防水ではありません。

付録

■設定初期値一覧表

通信設定	
通話方式	3 者同時通話
コンパンダー	AUTO
秘話設定	オフ
秘話周波数	3.4kHz
ノイズキャンセラー *	オフ
Bluetooth*	オフ
ペアリング一覧 *	-
BT 接続時本体 SP*	オフ
BT マイク▲ / ▼キー *	音量変更

送信設定	
PTT ホールド	オフ
VOX	オフ
コールバック**	オフ
エンドピー	オフ
送信出力	AUTO
VOX ディレイタイム	1 秒
マイク音量	4
緊急通報時間	10 秒

受信設定	
ベル	オフ
スピーカー出力	本体
音声ループ	オフ
PTT オン / オフ	オン
トーンマージン	オフ
モニターモード	オフ

電源設定	
オートパワーオフ	オフ

操作音設定	
サウンド	ALL
操作音量	3

表示設定	
バックライトタイマー	オン
カラー	ホワイト
明るさ	5
コントラスト *	3
ランプ	High
CH 非表示	オフ
周波数表示 *	オフ
S メーター表示 *	オフ

中継子機設定 *	
中継接続手順 *	オン
中継ハングアップ *	オフ
中継アラーム *	オフ

連結子機設定 *	
アクセス速度 *	オフ
アクセス音 *	ALL
ビーコン間隔時間 *	10 秒

デュアルオペレーション * **	
動作設定 * **	オフ
メイン CH* **	L01
サブ CH* **	L01
メイングループ * **	01
サブグループ * **	01
メインコンパンダー * **	オフ
サブコンパンダー * **	オフ
メイン秘話設定 * **	オフ
サブ秘話設定 * **	オフ
再開時間 * **	5 秒

短縮設定	
緊急通報	-
スキャン	-

参考
- * マークが付いているのは拡張セットモードの項目です。
- ** マークが付いているのは Bluetooth に対応していない項目です。

■仕様・定格は予告なく変更する場合があります。
■本書の説明用イラストは、実物とは状態や形状が異なる、一部の表示を省略している、等の場合があります。
■本書の内容の一部、または全部を無断転載することは禁止されています。
■乱丁・落丁はお取り替え致します。

ALINCO アルインコ株式会社 電子事業部

東京支店　〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番4号日本橋プラザビル14階　TEL.03-3278-5888
名古屋支店　〒460-0002 名古屋市中区丸の内1丁目10番19号サンエイビル4階　TEL.052-212-0541
大阪支店　〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4丁目4番9号 淀屋橋ダイビル13階　TEL.06-7636-2361
福岡営業所　〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東2丁目13番34号 エコービル2階　TEL.092-473-8034

アフターサービスに関するお問い合わせは

お買い上げの販売店または、フリーダイアル 0120- 464 -007

全国どこからでも無料で、サービス窓口につながります。
受付時間／ 10:00 ～ 17:00 月曜～金曜（祝祭日及び 12:00 ～ 13:00 は除きます）
ホームページ　https://www.alinco.co.jp/「電子事業」をご覧ください。

PS1048
FNFF-NG